加古川市

# 坂 元 遺 跡 Ⅳ 溝 之 口 遺 跡 Ⅱ

(主) 加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 24 (2012) 年 3 月 兵 庫 県 教 育 委 員 会 加古川市

# 坂 元 遺 跡 Ⅳ 溝 之 口 遺 跡 Ⅱ

(主) 加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 24 (2012) 年 3 月 兵 庫 県 教 育 委 員 会



坂元遺跡・溝之口遺跡遠景



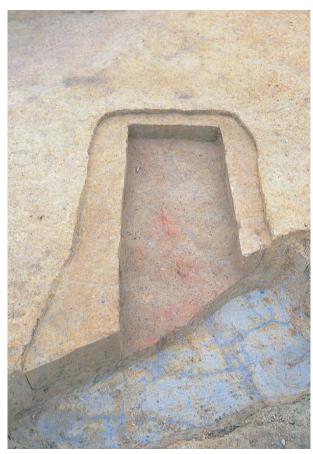
坂元遺跡調査区全体





58 ⊠ SH02

58区 SH02 出土土器







58 区 SX09 出土ガラス小玉・SX08 出土管玉

# 例 言

- 1 本書は、兵庫県加古川市野口町坂元に所在する坂元遺跡、同市加古川町美乃利に所在する溝之口遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に関して、兵庫県東播磨県民局長(加古川土木事務所)の依頼を受け、平成18年度に旧兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所(現兵庫県立考古博物館)が、平成20年度に兵庫県立考古博物館が発掘調査を実施し、平成22・23年度には整理作業を実施した。
- 3 本書の編集は同館職員の小川弦太が、執筆は小川・深江英憲・岡本一秀・山本誠が行い、非常勤嘱託職員増田麻子の協力を得た。
- 4 本書で使用した引用文献・参考文献は、各章の文末に掲載した。なお第1章第1節、第2節については兵庫県教育委員会の既刊報告書(坂元遺跡 I ~ Ⅲ、溝之口遺跡 I )を参考文献とする。
- 5 遺物写真撮影にあたっては、地域文化研究所と委託契約を交わし、兵庫県立考古博物館において実施した。
- 6 本書で使用した方位は磁北であり、水準は東京湾平均水準(T.P.)を使用した。
- 7 発掘調査にあたり、別府大学の志賀智史氏より赤色顔料について指導・助言を得た。記して感謝の意を表したい。

# 凡例

- 1 遺物は種類ごとに通し番号を付けているが、金属器にはM、石器にはS、玉にはTを冠し、土器との区別を行っている。
- 2 土器は種別によって断面の表現を変え、弥生土器、土師器は白抜き、須恵器は黒塗りで示している。

# 本文目次

第	1章	直 遺跡の位置と環境	
		第1節 地理的環境	1
		第2節 歴史的環境 ·····	1
第	2章	意 調査の経過	
		第1節 調査に至る経緯	3
		第2節 これまでの調査	3
		第 3 節 調査体制 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3
第	3章	5 坂元遺跡 調査の結果	
		第1節 調査区の概要	5
		第2節 調査の成果	
		1.57区の調査	5
		2. 58区・59区の調査	
		第3節 遺物	9
第	4章	<ul><li>満之口遺跡 調査の結果</li></ul>	
		第1節 調査区の概要	
		第2節 調査の成果	
		第3節 遺物	
	5章		
第	6章	ī 総 括 ··································	21
		挿 図 目 次	
第1図	恒元	〔元遺跡・溝ノ口遺跡の位置 ······· 1 第5図 胎土中の砂の粒径組成 ·····・	15
第2図		辺の遺跡(35000 分の1)2 第6図 砕屑物・基質・孔隙の割合 …	
第3図			
第4図		・粒度階における鉱物・岩石出土頻度17	20
7V 1 [23]	니기과	(AE)人目(1901)	
		表目次	
表1	試料		22
表2	薄片	5片観察結果17	
		図 版 目 次	
図版 1	坂元遺	選跡全体図 図版8 坂元遺跡58区 SK09~12·1	4 · 15 · 17
図版 2	坂元遺	定遺跡58区 SH01   図版9 坂元遺跡58区 SK13	
図版3	坂元遺	Z遺跡58区 SHO2 図版10 坂元遺跡58区 SK18	
図版4	坂元遺	遺跡58区 SB01・02       図版11 坂元遺跡58区 SK20・21	
図版 5		59区 S B O 3 59区 S K 2 3 57区 S K 5 7 -	0 1
図版 6		C遺跡58区 SB04       図版12 坂元遺跡58区・59区 SD02	
図版7		造遺跡59区 SK01 図版13 坂元遺跡58区 SX01	
	58区	図 SK02・04~06・08 図版14 坂元遺跡58区 SX02~05・	07.08

図版15 坂元遺跡58区 S X 0 6
図版16 坂元遺跡58区 S X 0 9
図版17 坂元遺跡58区 S X 0 9 主体部
図版18 坂元遺跡58区 S X 1 0
図版19 坂元遺跡58区 S X 1 0
図版20 坂元遺跡57区 S R 0 1
図版21 坂元遺跡58区 出土遺物 (1)
図版22 坂元遺跡58区 出土遺物 (2)
図版23 坂元遺跡58区 出土遺物 (3)
図版24 坂元遺跡58区 出土遺物 (4)
図版25 坂元遺跡58区 出土遺物 (5)

図版26 坂元遺跡58区 出土遺物(6)

図版28 坂元遺跡58·59区 出土遺物(8) 図版29 溝之口遺跡全体図 図版30 溝之口遺跡SD01~05 図版31 溝之口遺跡出土遺物(1)

図版32 溝之口遺跡出土遺物(2)

図版27 坂元遺跡57・58区 出土遺物(7)

# 写真図版目次

巻頭カラー図版1 遺跡遠景 58区 SH02 土器出土状況1 坂元遺跡・溝之口遺跡遠景 58区 SH02 土器出土状況 2 写真図版7 坂元遺跡58区 SH02 坂元遺跡調査区全体 巻頭カラー図版2 坂元遺跡 58区 SH02 土器出土状況3 58区 SHO 2 58区 SH02 土器出土状況4 58区 SH02 出土土器 58区 SH02 土器出土状況5 58区 SX08 58区 SH02 土器出土状況6 58区 SX09 出土ガラス小玉・ 写真図版8 坂元遺跡58区 SB01~04 SX08 出土管玉 58区 SB01、02 北東から 58・59区 SB03 西から 写真図版 1 坂元遺跡 空中写真 遺跡遠景 西から 58区 SB04 北東から 遺跡遠景 東から 写真図版9 坂元遺跡58区 SK02・04・05 写真図版2 坂元遺跡57区 空中写真 58区 SK02 西から 57区 南西から 58区 SK04 北から 57区 南東から 58区 SK05 北西から 写真図版3 坂元遺跡58区 空中写真 写真図版10 坂元遺跡58区 SK06・08・09 58区 南西から 58区 SK06 58区 北西から 58 S K O 8 写真図版 4 坂元遺跡59区 空中写真 58区 SK09 59区 南西から 写真図版11 坂元遺跡58区 SK10~12 59区 南東から 58区 SK10 写真図版5 坂元遺跡57区 58区 SK11 57区全景 西から 58区 SK12 写真図版12 坂元遺跡58区 SK14・15・18 57区全景 北東から 57区 SRO1 全景 南から 58区 SK14 57区 SRO1セクション 南東から 58区 SK15 写真図版6 坂元遺跡58区 SH02 58区 SK18 58区 SH02 北東から 写真図版13 坂元遺跡58区 SK20・21

	58⊠ S K 2 0		58区 S X 1 0 周溝鉄器出土状況 1
	58区 S K 2 O 土器出土状況		58区 S X 1 0 周溝鉄器出土状況 2
	58区 S K 2 1		58区 SX10 周溝 南から
写直図版1/	坂元遺跡58区 S D O 2	写直図版99	坂元遺跡59区全景・SB03
子兵凶/KIT	58区 SD02 北から	子兵囚\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	59区 全景 北東から
	58区 SDO2 南から		59区 全景 南西から
	58区 SD02 北から		59区 SB03
	58区 SD02 瓦出土状況 北から	写直回版93	坂元遺跡59区 SD02
写直図版15	坂元遺跡58区 S X O 1 ~ O 4	子兴凶/队20	59区 SD02 北東から
子兴凶/队10	58区 S X O 1 東から		59区 S D O 2 土器出土状況
	58区 S X O 2 完掘状況 東から		59区 噴砂状況 南から
	58区 S X O 3 、O 4 完掘状况 北から	写直回版94	坂元遺跡出土遺物(1)
写直回版16	坂元遺跡58区 S X O 5 ~ O 7		坂元遺跡出土遺物(2)
子兴凶/队10	58区 S X O 5 完掘状況 北から		坂元遺跡出土遺物(3)
	58区 S X 0 6 主体部床面検出状況 北から		坂元遺跡出土遺物(4)
	58区 S X O 7 北から		坂元遺跡出土遺物(5)
写直回版17	坂元遺跡58区 S X O 8 ~ 1 O		坂元遺跡出土遺物(6)
子兴凶/以1	58区 S X O 8 、 O 9 、 I O 東から		坂元遺跡出土遺物(7)
	58区 SX08 木棺検出状況 東から		坂元遺跡出土遺物(8)
	58区 S X O 8 北から		坂元遺跡出土遺物 (9)
	58区 SX08 床面検出状況		溝之口遺跡 空中写真
	58区 SX08 管玉出土 南から	3 X (E)//X00	西区 南西から
写直図版18	坂元遺跡58区 S X O 9		東区 南西から
JACO	58区 S X O 9 全景 東から	写直図版34	溝之口遺跡東区·西区
	58区 SX09 木棺検出状況 北東から	• > ( - / / / / / / / / / / / / / / / / / /	東区 全景 東から
	58区 SX09 主体部セクション 南から		西区 全景 東から
	58区 SX09 主体部	写真図版35	溝之口遺跡西区 SD01・02
	58区 SX09 主体部完掘状況 北から		西区 SD01、02 北から
写真図版19	坂元遺跡58区 SX09		西区 SD01 北から
	58区 SX09 ガラス小玉検出状況 北から		西区 SD02 北から
	58区 SX09 南から	写真図版36	溝之口遺跡西区 SD03・04
	58区 SX09 周溝東側土器出土状況		西区 SD03 南から
写真図版20	坂元遺跡58区 SX10(1)		西区 SD03 北から
	58区 SX10 北から		西区 SD04 北から
	58区 SX10 周溝検出状況 西から	写真図版37	溝之口遺跡西区 SD04・05
	58区 SX10 周溝内土器出土状況 南から		西区 SD04 北から
	58区 SX10 周溝土器出土状況1		西区 SD05 南から
	58区 SX10 周溝土器出土状況2		西区 SD05 北から
写真図版21	坂元遺跡58区 S X 1 O (2)	写真図版38	溝之口遺跡出土遺物(1)
	58区 SX10 周溝土器出土状況3	写真図版39	溝之口遺跡出土遺物(2)
	58区 SX10 周溝土器出土状況4	写真図版40	溝之口遺跡出土遺物(3)
	58区 SX10 周溝土器出土状況5		

# 第1章

# 第1節 地理的環境

坂元遺跡は加古川左岸に位置し、この平野に形成された日岡・野口段丘群の野口段 丘第4段丘西端に位置する。この段丘西側は別府川の段丘崖であり、今回の調査区57区と58区を区切る崖となる。段丘上は平坦な地形であり、現在は耕作地や住宅地が広がる。調査区の南側には白ヶ池川が北東から南西へと流れ別府川へ合流する。白ヶ池川の南側には、川によって分断された第4段丘がさらに続き、この部分にも坂元遺跡が拡がっている。

溝之口遺跡は、坂元遺跡の北西約500mに位置する。遺跡の北東側には日岡丘陵とその段丘、南東側には坂元遺跡のある野口段丘があり、西側には加古川が南流する。この範囲に囲まれた沖積平野もしくは氾濫原上に遺跡は立地する。今回調査を行った地区は、溝之口遺跡の西端部にあたり、こ

# 遺跡の位置と環境

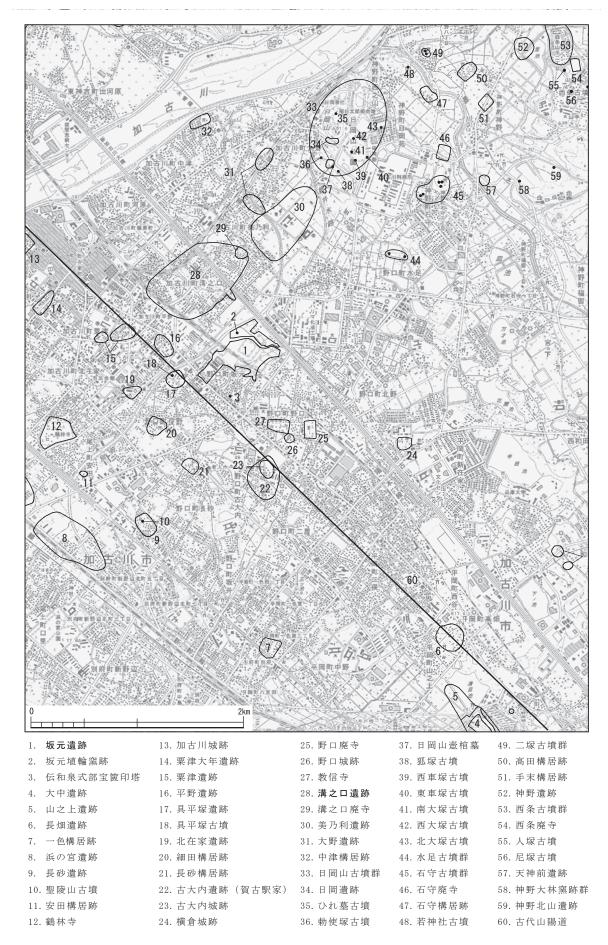


第1図 坂元遺跡・溝之口遺跡の位置

れまでに行われた調査で、調査区の北側には埋没微高地が存在していることが判明している。

# 第2節 歷史的環境

溝之口遺跡は東播磨を代表する遺跡であり、坂元遺跡も近年の調査によって旧石器~中世に至る大規模な複合遺跡であることが判明している。これら遺跡の立地する段丘上やその周辺では、遺構は伴わないが旧石器時代の遺物が採集されている。弥生時代以降になると遺跡数は増加し、加古川左岸では溝之口遺跡や美乃利遺跡、右岸では岸遺跡、砂部遺跡など拠点的な集落が弥生時代中期に現れる。坂元遺跡でも中期~後期の集落や方形周溝墓などが見つかっている。古墳時代になると両遺跡の北東方向に位置する日岡丘陵から西条にかけて、前方後円墳を中心に古墳が築かれる。また坂元遺跡でも削平された古墳が発見されており、各地にある段丘上にも古墳が築かれる。溝之口遺跡、坂元遺跡ともに古墳時代の集落を検出しており、坂元遺跡では6世紀前半の埴輪窯が検出されている。古代における遺跡周辺は、播磨国加古郡にあたり『播磨国風土記』の「馬家里」、『和名抄』の「賀古郷」にあたると考えられる。遺跡南側には古代山陽道が通り、「賀古駅家」に比定される古大内遺跡は坂元遺跡から1kmほど東に位置する。坂元、溝之口の両遺跡はこれら官衙的な遺跡と強く結びつく遺跡であることが判明している。中世では大野遺跡、栗津大年遺跡、美乃利遺跡で集落の様相がわかる遺構が多く確認されている。



第2図 周辺の遺跡(35000分の1)

# 第2章 調査の経過

# 第1節 調査に至る経緯

東播都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業に伴い、加古川市教育委員会が平成10年度に埋蔵文化財分布調査を実施し遺跡の存在が明らかとなった。平成14年度に兵庫県教育委員会が実施した確認調査結果から、事業地内の広範囲に遺跡が存在することが明らかとなった。今回の調査は東播都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業範囲の北東側に隣接する位置について、(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴い本発掘調査を実施した。なお、平成18年度に坂元遺跡57・58区と溝之口遺跡、平成20年度に坂元遺跡59区の調査を実施した。

# 第2節 これまでの調査

平成15~17年度の3カ年にわたって本発掘調査を実施し、弥生時代の方形周溝基群、古墳時代の集落および埴輪焼成窯、奈良時代の官衛的性格を示す建物群、中世集落、水田遺構等を検出した。また(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う発掘調査としては、平成16年度に、国道2号線に面する地区の発掘調査を実施し、奈良時代の農村集落跡を検出した他、弥生時代から古墳時代の遺物(翡翠製勾玉、耳環等も含む)が出土した。

# 第3節 調查体制

#### 坂元遺跡

本発掘調査

平成18年9月25日~平成19年2月5日(遺跡調査番号2006090)

兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所調査第3班 西口和彦・鈴木敬二・小川弦太

平成20年9月16日~11月21日(遺跡調査番号2008145)

兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 調査第1班 別府洋二·深江英憲

#### 満プロ遺跡

本発掘調査(遺跡調査番号2006091)平成18年9月25日~平成19年2月5日

兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所 調査第3班 西口和彦・鈴木敬二・小川弦太

#### 出土品整理作業

依頼文書:平成22年3月9日付け 東播(加土)第2111号

平成22年4月1日~平成23年3月31日

兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 整理保存課

事務担当:村上泰樹・篠宮正・宮嶋典美

作業担当:岡田章一・山本誠・岡本一秀

家光和子・小林陽子・眞子ふさ恵・三好綾子・奥野政子・藤尾裕子

西口由紀・小野潤子・荒木由美子・藤池かづさ・増田麻子・大西美緒

依頼文書:平成23年3月7日付け 東播(加土)第2054号

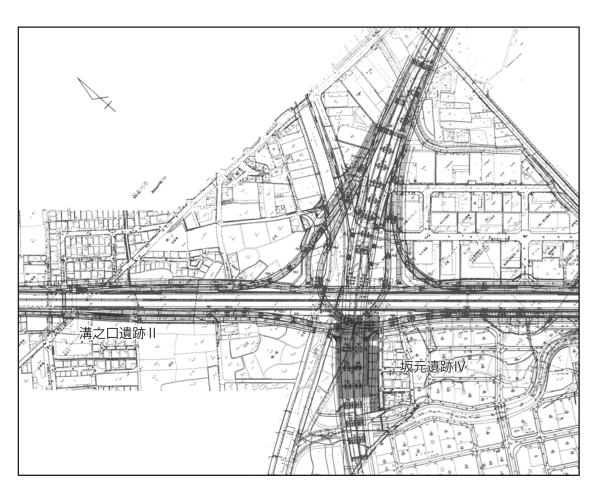
平成23年4月1日~平成24年3月31日

兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 整理保存課

事務担当:村上泰樹・篠宮正・宮嶋典美

作業担当:山本誠・深江英憲・岡本一秀

増田麻子・古谷章子・有田遥香・河上智晴・坂東知奈



第3図 調査位置図 (1/2,500)

# 第3章 坂元遺跡 調査の結果

## 第1節 調査区の概要

調査地は、一級河川別府川の左岸に位置し、調査区は川沿いの低湿地(57区)および段丘上(58区、59区) に立地する。

## 第2節 調査の成果

### 1.57区の調査(図版20 写真図版5)

57区は標高3~4mの低湿地に立地し、弥生時代の旧河道(SR01)を検出した。北から流れ込んだ川は段丘崖に接して南流し、途中で向きを西に変え、さらに再び南流する。埋土中には流木が含まれる。埋土中から出土した土器片から、時期は弥生時代前期と考えられる。また、調査区北西隅の低湿地では足跡を70箇所以上で検出した。足跡は大きさが16cmから23cmの範囲のもので、北から南に向かっていたようである。

#### SK57-01 (図版11)

調査区北部、57区北壁沿いで検出した。検出した直径80cm、深さ20cm前後の円形の土坑であると考えられる。土坑底部は水平である。

#### 2.58区・59区の調査

58区・59区は標高7~8mの段丘上に立地する。耕地開発等の造成により調査区が平らに削られていたためか、段丘崖に沿った範囲がより遺構の密度が濃く、段丘崖から離れると遺構が少なかった。特に古墳時代までの遺構はすべて段丘崖近くで検出した。調査区中央で南北に大溝(SD05)が走る。また、図化はしていないが、59区SK01の北側では噴砂を検出している。ほぼ南北方向に延びる3条を検出した。断面観察では遺構面下の砂質堆積の噴き上がった状況はあまり明瞭でなかった。

#### 〔竪穴住居〕

竪穴住居は2棟検出した。

#### SH01 (図版2)

調査区中央部、段丘崖沿いで検出した。検出した1辺4mの方形住居である。住居内から柱穴や周壁溝などの屋内施設は検出されず、遺物の出土もない。

#### SH02 (図版3 写真図版6·7)

調査区南西で検出した。検出した1辺4mの方形住居である。屋内施設として周壁溝、主柱穴がある。周壁溝は検出した住居壁際を全周する。主柱穴は3個検出し、直径30cm前後、深さ40~50cmを測る。床面からは土師器高杯、甕など(1)~(9)が出土している。

#### 〔掘立柱建物〕

掘立柱建物は4棟検出した。

#### SB01 (図版4 写真図版8)

調査区北東部で検出した。 1 間×2 間 (2 m×4.5m)の側柱建物である。柱穴は直径20cm前後、深さ40cm前後の円形である。SB02と並ぶ。須恵器椀 (10) が出土している。

#### SB02 (図版4 写真図版8)

調査区北東部で検出した。 1 間×2 間(1.7m×4m)の側柱建物である。柱穴は直径20cm前後、深さ20 ~ 40cm前後の円形である。SB01と並ぶ。

#### SB03 (図版5 写真図版8)

調査区中央部、58区と59区との境で検出した。  $2 \times 3 = (4.5 \text{m} \times 4.5 \text{m})$  の総柱建物である。柱穴は直径20cm前後、深さ $20 \sim 30$ cm前後の円形である。

#### SBO4 (図版6 写真図版8)

調査区北西部、SX09と重なって検出した。 2 間×4 間(4 m×5.5m)の側柱建物である。柱穴は直径30 ~ 40cm前後、深さ10 ~ 50cmの円形である。建物東部の柱穴は浅く掘られる。図化できる遺物は出土していないが、遺物からSX09と同時期の建物と考えられる。

#### 〔土坑〕

土坑は23基検出した。明らかに自然地形であるものや、近現代に属するものは報告を省略した。

#### SK01 (図版7)

59区北東部の壁際で検出した。検出した幅1.7m、長さ5.5m、深さ5cm前後の極浅い土坑である。土坑底部は水平である。

#### SK02 (図版7 写真図版9)

調査区北東部で検出した。検出した長径90cm、短径55cm、最大深さ15cmの楕円形の土坑である。土坑 断面は皿状を呈する。

#### SKO4 (図版7 写真図版9)

調査区北東部、SX06の周溝と重なって検出した。検出した最大幅70cm、長さ1mほど、最大深さ20cmの 土坑である。SX06周溝の先端部に位置する。SK04を検出した後、周溝を検出した。周溝の先端部が最終段 階で土坑状となっていた可能性がある。

#### SKO5 (図版7 写真図版9)

調査区北東部壁際で検出した。検出した長径80cm、短径50cm、最大深さ10cmの楕円形状の土坑である。 土坑断面は皿状を呈する。

#### SK06 (図版7 写真図版10)

調査区北東部、SX01西側の段丘崖沿いで検出した。検出した幅65cm、長さ65cm、最大深さ5cmの方形に近い土坑である。検出した土坑は極浅く、底部は水平である。須恵器甕(11)が出土している。

#### SK08 (図版7 写真図版10)

調査区北東部、SB02の西側で検出した。検出した長さ約4m、幅1.7m、最大深さ10cmの南西部が張り出す楕円形状の土坑である。土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK09 (図版8 写真図版10)

調査区中央部、SH01南側で出した。検出した長径1.5m、短径35cm、最大深さ7cmの長楕円形状の土坑である。土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK10 (図版8 写真図版11)

調査区中央部、SK11南側で検出した。検出した1辺2m前後、最大深さ5cmの隅丸方形で北西角部分が

円形に飛び出した形状を呈する。

#### SK11 (図版8 写真図版11)

調査区中央部、SK10北側で検出した。土坑を2つならんで検出した。南側は1辺80cm前後、最大深さ30cmの隅丸方形を呈し、北側は直径40cm、最大深さ20cmの円形を呈す。土坑断面は皿状を呈する。

#### SK12 (図版8 写真図版11)

調査区中央部、SK10西側で検出した。検出した長径1.2m、短径70cm、最大深さ25cmの楕円形の土坑である。土坑中央部が一段深くなる。

#### SK13 (図版9)

調査区中央部SB03に近接し、58区と59区の境で検出した。検出した長径6m、短径4m、最大深さ10cmの楕円形状の土坑である。地形的にくぼんだ場所の自然堆積の可能性もある。土師器甕(12)、弥生土器底部(13)土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK14 (図版8 写真図版12)

調査区中央南部SD02に近接し、58区と59区の境で検出した。59区では検出されなかったため、東側は浅かったと考えられる。検出した半径は70cm、深さ7cmを測る。土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK15 (図版8 写真図版12)

調査区西部、SX09南側で検出した。検出した長径85cm、短径70cm、最大深さ10cmの楕円形状の土坑である。土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK17 (図版8)

調査区西部、SX09西側で検出した。検出した直径30cmの楕円形状の土坑である。土坑のほとんどは撹乱によって破壊されている。

#### SK18 (図版10 写真図版12)

調査区中央部、SX09東側で検出した。検出した長さ3m、最大深さ30cmの土坑である。撹乱が激しく土坑の正確な形状は不明である。土坑底部は水平を呈する。土師器高杯(14)、須恵器椀(15)が出土している。

#### SK20 (図版11 写真図版13)

調査区西部、SH02東側で検出した。検出した長さ2.5m、最大深さ95cm、最大深さ35cmの土坑である。 土坑東壁は垂直に近い角度で掘られ、西側はやや緩やかな傾斜となる。この傾斜部分から底部に穿孔のある 弥生土器壷(16)が口縁部を下に向けた状態で出土している。

#### SK21 (図版11 写真図版13)

調査区西部SD02の北東側で検出した。検出した半径は70cm、深さ7cmを測る。土坑断面は浅い皿状を呈する。

#### SK23 (図版11)

調査区中央部、SK13の北側で検出した。検出した長さ70cm、幅25cm、最大深さ5cmの溝状の土坑である。土坑北部が飛び出した形状をする。検出した深さ最大10cmを測り、土坑底部は水平を呈する。

#### [溝]

溝は17条以上検出しているが、鋤溝や近現代に属するものなど報告を省略した。

#### SD02 (図版12 写真図版14)

調査中央部に位置し、ほぼ南北方向に延びる溝である。掘方は外側と内側にあって段状を呈する。外側の掘方は検出幅釣7.5mで、埋土の堆積が浅くなだらかであるのに対して、内側の掘方は幅3.5m~4.0mの垂直気味に落ちるしっかりとした形状で、埋土は床面付近で水の流れを窺わせる堆積が認められるものの、概ねべース土(地山)ブロックを多量に含んだ褐色系の土であり、周辺の土を使って埋めた人為的堆積である。恐らく近隣の造成土を利用して溝を埋めたものと考えられる。

床面の形状は平らだが、所々段状に掘り窪められ、人為的に高低差がつけられて、当該調査箇所を頂部として別府川(北側)へ向かって低くなっていく。遺物の出土状態としては上層では細片が多く、専ら内側掘 方内の人為的堆積において古墳時代(6世紀代)の土師器を中心に出土し、特に高杯脚部の出土が目立って 多い。当該地周辺の調査において多くの古墳が検出されていることを考慮すると、造成によって近隣の古墳 が破壊され、その造成土で溝を埋められたものと考えられる。

遺物は土師器甕、高杯など(17)~(32)、石器(S1)、(S2)が出土している。

#### SD03~06 (図版1)

SD02東側で検出した中世段階の溝である。SD03は東西方向、SD04はSD03から分岐する溝であり、SD02を切る。SD05は東西方向からSD02の手前で南北方向と向きを変え、SD03、04に切られる。SD06はSD02埋土上で検出した溝である。いずれも遺物の出土はなく時期の特定は行えないが、SD02埋没以降に掘削された溝である。

#### SD17 (図版1)

調査区南西部SD02に近接し、59区壁際で検出した。溝全体の形状は不明である。土師器小型丸底壷(33)が出土している。

#### [古墳]

古墳は4基検出した。検出された古墳は段丘崖に近い位置にあり、墳丘は削平を受け、ほぼ周溝と主体部だけが検出可能であった。削平された状態の遺構面で主体部を検出できたことを考えれば、古墳の墳丘は比較的低かったと考えられる。主体部はいずれも木棺直葬で石室などを持つものはなかった。

#### SX01 (図版13 写真図版15)

墳丘の一辺約5m、周囲を幅1m前後の周溝が廻る。古墳北部は段丘崖により破壊されている。検出した 主体部は2基。主体部の規模は、主体部1が110cm×240cm、主体部2が50cm×130cmを測る。いずれも木 棺直葬である。主体部1の主軸は墳丘の軸方向と揃う。土錘(34)~(36)が出土している。

#### SX06 (図版15 写真図版16)

墳丘の規模は不明である。検出した主体部の規模は70cm×140cm、深さ10cmの極浅いものであり、木棺直葬である。

#### SX09 (図版16 写真図版17~19)

墳丘の一辺6m以上、周囲を幅2m前後の周溝が廻る。古墳北部は段丘崖により破壊されている。検出した主体部の規模は130cm×280cm、深さ23cmを測り、木棺直葬である。主体部床面で水銀朱を検出し、さらにガラス玉約60点(T2)~(T61)が出土している。またSX09の墳丘上面で、古墳と同時期の掘立柱建物(2間×3間)を検出した。このことは、何らかの埋葬儀礼が墳丘上で執り行われ、この埋葬儀礼を行うための

覆い屋が墳丘上に設けられた可能性を示している。周溝から土師器高杯(37)~(39)が出土している。

#### SX10 (図版18 写真図版20·21)

墳丘の一辺4m以上、周囲を幅2m前後の周溝が廻る。古墳北部は段丘崖により破壊されている。主体部は検出されなかった。周溝内から土師器高杯(40)~(43)、土師器甕(44)~(50)、須恵器器台(51)、須恵器腿(52)が出土している。須恵器椀(53)も出土するが後世の混入であろう。

#### 〔木棺墓〕

周溝を伴わない木棺基を2基検出した。北からSX07、SX08とした。どちらも古墳SX09に従属するかのような位置に配置されている。

#### SX07 (図版14 写真図版16)

SX09の2.5m東、SX08の3 m北東に位置する。検出した主体部の規模は80cm×190cm、深さ15cmを測り、主軸は東西方向にとる。

#### SX08 (図版14 写真図版17)

SX09の東に隣接し、SX07の3m南西に位置する。検出した主体部の規模は90cm×100cm以上。深さ16cmを測り、主軸は東西方向にとる。床面に水銀朱が塗布され、主体部南西付近から管玉(T1)が出土した。

#### 〔土坑墓〕

全長が概ね1m未満の規模の土坑を土坑墓とした。古墳SX01の南側で4基検出した。

#### SX02 (図版14 写真図版15)

検出した長さ110cm、幅50cm、深さ15cmを測る。主軸は東西方向にとる。

#### SX03 (図版14 写真図版15)

検出した長さ110cm、幅50cm、深さ13cmを測る。主軸はほぼ南北方向にとる。SX04と平行する。

#### SX04 (図版14 写真図版15)

検出した長さ60cm、幅50cm、深さ10cmを測る。主軸はほぼ南北方向にとる。SX03と平行する。

#### SX05 (図版14 写真図版16)

検出した長さ60cm、幅40cm、深さ16cmを測る。主軸は南東-北西方向にとる。

# 第3節 遺物

#### SH02 (図版21 写真図版24)

1は、土師器高杯の杯部である。平坦な底部から段を成して、大きく開きながら立ち上がる口縁部を持ち、端部は丸く納める。

2は、土師器高杯の杯部である。綾を持たない丸味を持った体部から、やや外反しながら立ち上がる口縁 部を持ち、端部は丸く納める。

3は、土師器高杯の杯部である。綾を持たない丸味を持った体部から緩やかに開く口縁部を持つ。口縁端 部は欠損していて詳細は不明だが、細身に丸く仕上げると考えられる。

4は、土師器高杯の杯部である。綾を持たない丸味を持った体部からやや直上気味に立ち上がる口縁部を 持ち、口縁端部付近で僅かに外反する。口縁端部は細身に丸く仕上げる。

5・6は、土師器高杯の杯部の一部だが、残りが悪く形態は不明である。

7は、土師器高杯の脚部である。低くラッパ状に開く脚部の柱状部だが、残りが悪く、詳細は不明である。 8は、小型の土師器甕である。底部は欠損しているが、丸底である。卵形に近い球形の胴部に、やや上方 に立ち上がるくの字状口縁部を持つ。口縁端部は丸く納める。

9は、土師器甕である。下半部が欠損しているが、球形を呈する胴部の丸底であろう。口縁部は、屈曲部からやや直上に立ち上がり、端部にかけて僅かに外反する。胴部外面及び口縁部はハケメの後ナデ調整、胴部内面は板ナデ調整である。

#### SB01 (図版21 写真図版25)

10は、須恵器椀である。底部が欠損しており、詳細は不明だが、僅かに内湾しながら立ち上がる体部で、やや外反する口縁部を持つ。口縁端部は丸く納める。

#### SK 0 6 (図版21 写真図版25)

11は、須恵器甕の口縁部である。僅かに外反しながら開く口縁部で、端部外面に帯状の段を持つ、外面は、カキ目の後1条の沈線を境にして2段の波状文を施し、口縁端部にはキザミ目を施す。

#### SK 1 3 (図版21 写真図版25)

12は、土師器甕の上半部である。胴部は球形で、底部は丸底と考えられる。口縁部は、綾を持たない緩い 屈曲の、くの字状を呈し、僅かに開きながら短く立ち上がる。口縁端部は丸く納める。

13は、弥生土器底部である。器種は、甕と考えられる。器面調整は、摩滅のため不明だが、胎土分析から、河内西麓産の胎土に類似している事が判明している。

#### SK 1 8 (図版21 写真図版25)

14は、土師器高杯の脚部である。小さくラッパ状に開く柱状部の一部だが、残りが悪く、詳細は不明である。 15は、須恵器椀である。口縁部のみで、詳細は不明だが、底部から直線的に開く体部であろう。口縁端部 は丸く納める。

#### SK20 (図版22 写真図版26)

16は、弥生土器壷である。底部は平底で、胴部は肩張りの卵倒形を呈し、強く窄まる頸部から、外反しながら短く立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部は内外に肥厚し、面を成す。胴部上半部はハケメの後ナデ、下半部は横方向のミガキを施す。また、底部は焼成後に穿孔しており、祭祀的な意味合いが強い。

#### SD02 (図版22·23 写真図版26·27)

17は、土師器甕の口縁部である。綾を持たない緩い窄まりの頸部から、外反しながら開く。外内面共に摩滅が激しく、調整は不明だが、外面にタタキの様な痕跡が認められる。

18は、土師器甕の口縁部である。やや内湾気味の、くの字状を呈する。端部は僅かに内へ摘み上げる。

19は、土師器甕の口縁部である。綾の緩い屈曲から、僅かに外反しながら立ち上がるくの字状を呈する。 残存する胴部内面は横方向のヘラケズリ、胴部外面はナデ、口縁部はヨコナデ調整である。また、口縁屈曲 部付近は粘土接合痕を残す。

20~22は、土師器高杯の脚部である。20は、ラッパ状に開く比較的大型の柱状部で、天井部に杯部との 剥離痕跡が顕著に残る。内面は、横方向の板ナデ痕が残る。21は、小さくラッパ状に開く小型の柱状部で、 内面には成形時のシボリ痕が残る。また、裾部付近で4箇所の円孔透かしを施す。22は、小さくラッパ状に 開く柱状部で、内面には成形時のシボリ痕が残る。 23は、器種不明の土師質土製品である。内面には粘土接合痕が顕著に残り、成形時のシボリ痕も残っており、ほぼ未調整の状態である。

24は、土師器小型壷である。上半部が欠損しているため詳細は不明だが、体部は卵形を呈するものと考えられる。底部内面には指頭圧痕が残る。

25は、須恵器高杯である。柱状部から裾部にかけて大きくラッパ状に開き、柱状部と裾部の境で段を持つ。杯部は上半部が欠損しており詳細は不明である。また、脚柱状部にはヘラ状工具の刺突によると考えられる透かしを3箇所施す。

26は、須恵器壷の口縁部である。外反しながら開き、外面には段を持つ。また、内面には自然釉が付着する。 27は、須恵器壷の一部と考えられる。肩部付近に一条の凸帯を持つが、器形等、詳細は不明である。

 $28 \sim 30$ は、須恵器椀の底部である。28は、体部が僅かに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。また、底部外面にはヘラ状痕が残る。 29は、体部がほぼ真っ直ぐに開くものと考えられる。また、底部外面には糸切り痕が残る。30は、体部が僅かに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。また、底部外面には糸切り痕が残る。

31は、須恵器鉢の口縁部である。端部でやや肥厚する、所謂、東播系の須恵器である。

32は、丸瓦である。狭端部側が欠損している。凸面は縦方向のナデで仕上げ、凹面は布目が残る。

S1はサヌカイト製の石鏃で、長さ21.4mm、幅12.8mm、厚さ3.8mm、重さ1.0gである。

S2はサヌカイト製のスクレイパーで不完全な円形を呈し、粗いがほぼ全周に加工痕を認める。長さ73.4mm、幅70.5mm、厚さ9.4mm、重さ46.2g。

#### SD17 (図版23 写真図版32)

33は、土師器小型丸底壷である。球形の体部に綾の緩い屈曲の口縁部を持つ。口縁端部は細身に丸く納める。体部内面には接合痕が残る。

#### SX01 (図版24 写真図版28)

34~36は、土師質の土錘である。34・35は、棒状土錘で、共に両端部が欠損しており、片側に紐通し孔の痕跡が認められる。36は、管状土錘である。やや摩滅しているが、ほぼ完形のものである。

#### SX08 (図版26 巻頭カラー図版2)

T1 緑色凝灰岩製の管玉である。長さ26.8mm、直径7.6mm、孔の直径2.5mmを測る。

#### SX09 (図版24·26 巻頭カラー図版2 写真図版28)

37は、土師器高杯の杯部である。低く開く底部で、明確に綾を持って段を成し、外反しながら開く口縁部を持つ。底部は、脚部との剥離痕を顕著に残す。

38・39は、土師器高杯の脚部である。38は、ラッパ状に開く柱状部に浅く短い裾部を持つ。柱状部内面には接合痕が顕著に残る。また、柱状部裾付近には3箇所円孔透かしを施す。39は、僅かに膨らみを持ってラッパ状に開く柱状部である。柱状部裾付近には円孔透かしを施すが、配置状況から2箇所の可能性が考えられる。

 $T2 \sim 61$  ガラス小玉の直径の最大値、最小値は3.8mm、2.5mmを測る。また、平均値は3.1mmである。ガラスの色調は、T2が青紺色、T19が濁った青紺色でそれ以外は淡青色を呈す。蛍光X線分析装置による材質分析の結果、ガラスの基礎成分となる珪素(Si)の他にカリウム(K)が多く検出されていることから、

カリガラス系のガラスであることがわかった。ガラスの色調ごとに元素の成分を詳しくみてみると、大半を占める淡青色ガラスは、銅(Cu)が含まれていることが特徴である。青紺色ガラスのT2はカルシウム(Ca)が淡青色ガラスに比べて多いこと、コバルト(Co)が含まれていることが特徴である。濁った青紺色ガラスのT19にはマンガン(Mn)、銅(Cu)の他に錫(Sn)がわずかに検出されるのが特徴である。

#### S X 1 0 (図版24·25 写真図版29·30)

40・41は、土師器高杯である。40は、脚部から口縁部まで辛うじて残存し、復元完形となっている。小さくラッパ状に開く柱状部に、浅く開く裾部を持つ脚部で、半球体の椀状を呈する杯部が付く。脚部の柱状部と裾部の境には3箇所の円孔透かしを施す。41は、口縁端部、脚裾部が欠損する。ラッパ状に開く柱状部に、丸味を持って緩やかに立ち上がる体部が付く。口縁部付近は、端部にかけて外反する。体部外面には、カキメ状に横方向の調整痕が認められ、脚柱状部内面には、接合痕が顕著に残る。また、柱状部裾付近には、3箇所の円孔透かしが施される。

42は、土師器高杯の杯部である。丸味を持って緩やかに立ち上がる体部で、口縁端部付近にかけて僅かに 外反する。

43は、土師器高杯の脚部である。小さくラッパ状に開く柱状部のみで、状態が悪く詳細は不明である。

44・45は、土師器甕である。44は、底部から口縁部にかけて辛うじて残存し、復元完形である。底部丸底の卵形を呈する胴部で、やや綾の緩い屈曲から、外反しながら上方に立ち上がる、くの字状の口縁部を持つ。胴部外面はハケメの後下半部をミガキで仕上げ、内面はタテ・ヨコのケズリで仕上げる。45は、底部が欠損しているが、ほぼ球体を呈する丸底の甕である。綾の緩い屈曲から、僅かに外反しながら上方に立ち上がる、くの字状口縁部を持つ。胴部外面には、タテ・ヨコのハケメ調整が残る。

46~48・50は、土師器甕である。46は、綾の緩い屈曲から真っ直ぐ開く、くの字状を呈する。屈曲部外面には指頭圧痕が残る。47は、綾の緩い屈曲から外反しながら上方に立ち上がる、くの字状を呈する。屈曲部付近外面にはハケメ調整が残る。48は、綾の緩い屈曲から僅かに外反しながら上方に立ち上がる、くの字状を呈する。外内面には、粘土接合痕が残る。50は、ほぼ綾を持たない緩い屈曲から、やや開きながら立ち上がる。頸部付近外面に粗いハケメ調整が残る。残存する胴部内面は横方向のケズリで調整したと考えられるが、摩滅のため不明瞭である。

49は、土師器壷であろう。綾の緩い屈曲から口縁部にかけて僅かに外反する。頸部付近外内面には指頭圧 痕、内面は胴部にかけて粘土接合痕が顕著に残る。

51は、須恵器器台であろう。外面には、二条の凸線の間に波状文を施す。

52は、須恵器腿である。底部丸底の、やや拉げた肩張りの卵倒形の体部で、口縁部は欠損しているが、一条の沈線が認められる。体部外面は、肩部で一条沈線下に粗い波状文を施し、円孔を1箇所設ける。

53は、須恵器椀の底部である。体部は僅かに内湾しながら開くものと考えられる。また、底部外面には、糸切り痕が残る。

M1は、鉄鏃である。逆刺や箆代は欠損する。残存長約5.2cm、幅約3.4cm、厚さ約 $2\sim3$  mmである。 M2は、袋状鉄斧である。ほぼ完形で、残存長約7.7cm、幅約 $3.4\sim4.8$ cm、刃部の厚さ約6 mmである。 S3はサヌカイト製の石鏃で、基部には大きな抉りがあり、特徴的である。長さ21.0mm、幅15.4mm、厚さ3.3mm、重さ0.6gである。

#### SR01 (図版27 写真図版31)

54は、弥生土器壷である。口縁部は欠損している。底部は平底で、胴部は中位が張る丸味を持った算盤玉状を呈する。胴部外面は特に中位以下でミガキ調整が認められ、底部付近外内面で指頭圧痕が残る。胴部外面中位以下では黒斑があり、内面には煤状の付着が認められる。また、底部は、焼成後穿孔の痕跡が見られる。前期の範疇に入るものと考えられる。

55は、土師質容器の口縁部だが、器種等は不明である。

#### 包含層 (図版27・28 写真図版31・32)

- 56は、弥生土器の甕であろう。外面の屈曲部上にD字状のキザミを施す。極初期のものと考えられる。
- 57は、土師器高杯の杯部である。浅く開く底部から、屈曲を持って開くものである。外面の一部に黒斑が残る。
- 58は、弥生土器の甕である。綾を持たない緩い屈曲から外反する如意形口縁部を持つ。前期の範疇に入るものと考えられる。
- 59は、須恵器杯身である。体部は浅く内湾しながら立ち上がるもので、受け部から内傾気味にやや外反しながら立ち上がる口縁部を持つ。底部外面は回転ヘラケズリで、その他は回転ナデで仕上げる。
  - 60は、須恵器杯身であろうか。外面は回転ヘラケズリだが、小片であり、詳細は不明である。
- 61は、須恵器杯蓋の口縁部である。極浅い体部で、口縁端部が下方に屈曲する。体部天井部にツマミを有すタイプのものである。
  - 62は、須恵器杯身の底部である。底部外面に高台を持つ。蓋を伴うものである。
  - 63は、須恵器椀であろうか。小片で詳細は不明だが、杯蓋の可能性も考えられる。
  - 64は、須恵器小鉢の口縁部である。端部は外面に段を持ち、内外に肥厚する。
  - 65は、須恵器鉢の口縁部である。端部は外側に向かってやや肥厚する。
  - 66は、須恵器鉢の口縁部である。端部はやや肥厚する。
- 67は、須恵器擂鉢の口縁部である。端部は外面で段を持って肥厚し、内面は、段を持って内へ突出する。 体部内面に擂り目が認められる。東播系須恵器としては、非常に希少な出土例である。
  - 68は、土師質の棒状土錘である。半分が欠損するが端部付近に紐通し孔を持つ。
- 69は、須恵器高台付皿である。体部は浅く大きく開き、端部にかけて大きく外反する口縁部を持つ。底部はヘラ切りで、細身の高台を貼り付ける。
  - 70は、須恵器椀である。底部が欠損する。
  - 71は、須恵器椀の口縁部である。
  - 72は、白磁の小皿である。
- 73は、須恵器製の面子である。片面には、僅かに糸切り痕が認められることから、須恵器椀か須恵器小皿を転用したものと考えられる。
- $S4 \sim S8$ はすべてサヌカイト製の石鏃である。S4は長さ16.6mm、幅19.8mm、厚さ3.5mm、重さ0.7gで、形態的特徴から縄文時代の早期に属するものと判断できる。S5は長さ18.7mm、幅14.8mm、厚さ3.4mm、重さ0.5gである。S6は長さ22.4mm、幅14.0mm、厚さ4.1mm、重さ0.8gである。S7は長さ24.1mm、幅17.8mm、厚さ0.44mm、重さ1.0gである。S8は長さ26.6mm、幅10.4mm、厚さ3.0mm、重さ0.7gで、木葉形を呈する。

# 第4章 溝之口遺跡 調査の結果

# 第1節 調査区の概要

今回の調査地は溝之口遺跡の南東端に位置する。地形的には溝之口遺跡の集落域が立地する微高地からは外れた低湿地および氾濫源に立地する。調査地は国道2号加古川バイパスの側道に隣接する旧耕作地で、掘削時に発生する残土の仮置き場が確保できないため、東西2地区に分けて調査することとした。調査は先に西区、後から東区の順で実施した。

#### 第2節 調査の成果

#### 1. 基本層序

基本層序については、表土 (耕作土) および床土が約30cm堆積した下層に、約30cmの厚さで中世の耕作土が堆積する。その下層に約10cmの厚さで古代の耕作土が堆積する。耕作土内には8世紀代の土器等が含まれる。その下層は灰褐色の非土壌層で、西区ではこの上面で溝等の遺構を検出した。

#### 2. 西区 (図版30 写真図版33~37)

西区の西半部では、中世耕作土の下に、浅い旧河道または厚い洪水砂の堆積を検出した。内部には粒径の粗い砂および礫が密に堆積しており、埋土中で土器はほとんど出土しなかった。西区の東半部まではこの砂礫層は延びず、現地表から約70cm下層で灰褐色の非土壌層を検出し、溝 5条 (SD01 ~ 05) を検出した。溝内から遺物が出土しなかったため遺構の時期は不明であるが、上層の土壌層内で8世紀に属する土器等が出土したため、遺構は8世紀以前の時期に属する。

#### 3 東区 (図版30 写真図版33~34)

東区では現地表より約60cm下の土壌層上面で、南東一北西方向に延びる水田畦畔を検出した。畦の幅は約1mで、畦内に8世紀以前の土器が含まれ、8世紀代に設けられたものと考えられる。東区のみで検出できたが、本来は西区まで延びる遺構であると考えられる。

#### 第3節 遺物

#### SD03 (図版31 写真図版38)

74は、土師器小壷の口縁部と考えられるが、小片であり、詳細は不明である。

#### **水田面**(図版31·32 写真図版38·39)

75~80須恵器杯蓋である。75は、口縁端部が下方に強く屈曲するもので、やや外反する。76・77は、口縁端部が下方に摘み出しており、外面に沈線状凹みを持つ。78は、口縁端部が下方に強く屈曲するもので、やや内傾する。79は、口縁端部が屈曲せず外反するものである。80は、扁平なツマミである。

 $81 \sim 84$ は、須恵器杯で、高台を持たないものである。81は、やや開きながら立ち上がる体部で、やや小型である。 $82 \sim 84$ は、やや開きながら立ち上がる体部で、82は比較的薄手である。また、 $81 \cdot 83 \cdot 84$ は、底部がヘラ切りである。

85は、須恵器綾椀である。底部付近にシャープな綾線を持ち、口縁端部にかけて外反する。口縁端部は若 干摘み出す。

86~88は、須恵器杯で、高台を持つものである。

89・90は、須恵器高台付皿である。大きく開く体部で、口縁端部にかけて外反する。底部は、ヘラ切りで、 比較的足高な高台を貼り付ける。90は、口縁端部が摘み出しによって、上方に屈曲し、底部外面には、「井」 の字状のヘラ描きが施される。

91は、土師質で釣鐘形飯蛸壷の環状把手部である。

92は、軒丸瓦である。瓦当は、中央の蓮子等も欠損していて残りは良くないが、尖った二重線で囲んだ単 弁蓮華文で、弁間に珠文を持つものである。播磨国府系瓦の毘沙門式に属すると考えられる。

 $93 \sim 95$ は、平瓦である。凹部には布目が残り、凸部には格子タタキが残る。格子タタキには、正位置に対して横長の菱形を呈するもの( $93 \cdot 95$ )、細長い平行四辺形状のもの(94)がある。

#### 包含層 (図版32 写真図版40)

96・97は、須恵器杯である。高台持たないもので、底部がヘラ切りである。

98~100は須恵器壷の底部と考えられる。底部には高台を貼り付ける。

101は、土師器椀の底部で、足高の高台を貼り付ける比較的大型のものである。

102は、移動式竈の鍔部に当たると考えられる。

103は、軒丸瓦である。瓦当は殆ど欠損していて残りは良くないが、単弁の蓮華文と考えられ、播磨国府系瓦の国分寺式に属するものではないかと思われる。

104は、軒丸瓦だが、外縁部の一部を残して瓦当部が欠損しており、文様等は不明である。また、胴部凹面には布目が残る。

M3は、輪状の鉄製品である。断面方形状の棒状の鉄を輪状としたもので、直径約2.1cm、厚さ約4mmである。用途は不明である。

# 第5章 出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

今回の分析調査では、加古川市に所在する坂元遺跡IVから出土した弥生土器および土師器について、その 材質(胎土)の特性を明らかにし、その生産や供給事情に関わる資料を作成する。坂元遺跡IVは、いなみの 台地北西部を流れる別府川の右岸に位置する。

# 1. 試料

試料は、坂元遺跡Ⅳから出土した弥生土器の甕の底部とされている土器片1点(報告No.13)と古墳時代の土師器の甕とされている土器片1点(報告No.46)の合計2点である。各試料の報告No.と出土遺構および時期と器種を一覧にして表1に示す。

#### 2. 分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺 表1 試料一覧および胎土分類結果

報告No.	遺構	時期	種別	器種	胎土
13	SK03	弥生時代	弥生	甕?底部	В
46	SX10	古墳時代	土師器	甕	K1

胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および 岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の 製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事 情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別が できないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方 法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は 偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明ら かにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫~中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

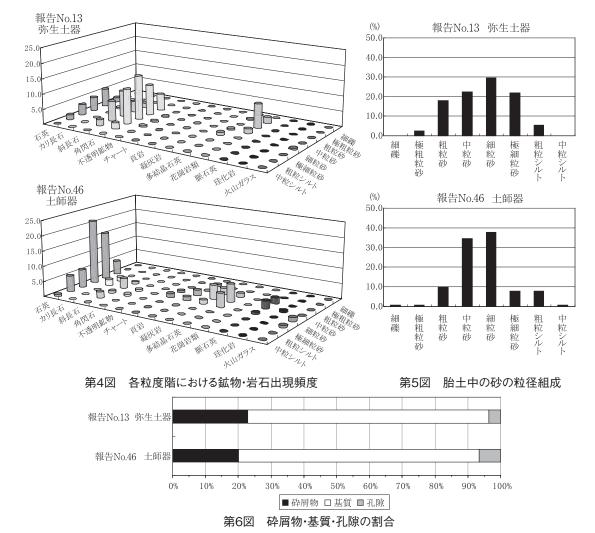
#### 3. 結果

観察結果を表2、図 $1\sim3$ に示す。これまでの兵庫県下の遺跡出土土器胎土分析において設定した鉱物片および岩石片の種類構成による胎土分類では、A類からN類までの種類が設定され、さらに、各種類について副次的な鉱物や岩石の種類によって細分もしている。今回の結果も、その基準に従って分類してみると以下のようになる。

弥生土器の報告No.13は、角閃石の 表2 薄片観察結果 鉱物片が石英や斜長石の鉱物片よりも 多く、カリ長石と不透明鉱物を微量伴 い、岩石片では花崗岩類が比較的多 く、他には微量の多結晶石英を含むの みという特徴を示す。このような組成 は、これまでの分類ではB類に相当す る。

土師器の報告No.46は、石英の鉱物 片が非常に多く、鉱物片では他に少量 のカリ長石と斜長石および微量の角閃 石を伴い、岩石片ではチャートや頁岩 などの堆積岩類と凝灰岩および多結晶 石英、脈石英、珪化岩、火山ガラスな どを少量ずつ含む。坂元遺跡が加古川 流域に位置することを考慮すれば、上

						砂		ļ.,	— ク	種		î ‡	<b>推</b>	成				
報		砂	-	鉱	物	片				<u>俚</u> 岩	 石	<u></u> 片		灰	2	-の <sup>/</sup>	filts	合
		粒	石	力	斜斜	角	_	チ	頁	凝	—			珪	火	植		
告		X	40	1]			不透明	ナヤ	貝		多結晶	花崗					植物	
No.		分		長	長	閃	明鉱	1		灰	曐	岩	石	化	山ガラ	物	物珪酸	計
110.		,,	英	石	石	石	物	ト	岩	岩	石英	類	英	岩	ラス	片	体	н
		細礫																0
		極粗粒砂									1	4						5
		粗粒砂	3	3	3	11						16						36
	砂	中粒砂	12	1	7	20	1				1	3						45
	11-9	細粒砂	9		17	29	1				2				1			59
13		極細粒砂	7		13	23	1											44
弥生土器		粗粒シルト	3		4	4												11
		中粒シルト																0
		基質															642	
		孔隙																31
		備者 基質は雲母粘土鉱物質で褐色を示す。火山ガラスはバ												はバ	ブル			
		佣号	ウォ	r-)	ル型	。花	崗岩	類	としぇ	たもの	のに	は、	角閃	石の	)クロ	1ッ	181	含む。
		細礫														1		1
		極粗粒砂							1									1
		粗粒砂	7							3	2		3					15
	砂	中粒砂	24	2	1			1	3	7	9		4	1				52
	113	細粒砂	32	3	5	1		2	2	2	7		1		2			57
46		極細粒砂	9		1	1									1			12
土師器		粗粒シルト	8		3												1	12
п		中粒シルト	1															1
		基質																550
		孔隙																49
		t±: →/	基位	質は	雲母	質。	火	_ 山ガ	ラス	はノ	「ブ)	レウ	ォー	ル型	。海	是灰:	岩は	、結
		備考		•													_	1る。



述の鉱物・岩石組成は、堆積岩類と凝灰岩を含みながらも花崗岩類の含まれないことを特徴とするK類に分類される。K類については火山ガラスを非常に多く含む組成をK2類とし、火山ガラスを含まないあるいは微量~少量しか含まない組成をK1類としたが、今回の試料はK1類に相当する。

次に各試料の砂分全体の粒径組成をみると、弥生土器も土師器もともに細粒砂をモードとするが、弥生土器は粗粒砂、中粒砂、極細粒砂も比較的多く含むが、土師器は細粒砂と中粒砂のみが突出して多い組成を示す。砕屑物・基質・孔隙の割合では、2点の試料ともに砕屑物の割合が20%程度を示し、差異はない。

# 4. 考察

今回の2点の試料は、ともに坂元遺跡Ⅳから出土したものであるが、弥生土器と古墳時代の土師器という 時期の異なるものである。胎土分析では、鉱物・岩石組成において互いに全く異なる組成となった。ここで、 加古川水系流域に分布する地質については、猪木(1981)や河田ほか(1986)および日本の地質「近畿地方」 編集委員会編(1987)などにより概要を知ることができるが、さらに、詳細には、尾崎ほか(1995)、尾崎・ 松浦 (1988)、藤田・笠間 (1983)、吉川ほか (2005)、栗本ほか (1993)、栗本・牧本 (1990) のいずれも 5万分の1スケールの地質図によって確認することができる。これらの地質記載から、加古川水系(すなわ ち支流も含む)流域のうち、下流域から中流域にかけては、中生代白亜紀の流紋岩やデイサイト質の溶岩お よび火砕岩(凝灰岩)からなる相生層群および有馬層群が分布し、上流域には中生代ジュラ紀のチャート・ 砂岩・頁岩からなる丹波帯が分布する。また、下流域の相牛層群からなる山地の縁辺には、第四紀更新世の 河成・海成層である大阪層群からなる丘陵も分布している。この大阪層群中には、火山ガラスからなるテフ ラ層が複数狭在している。今回の試料で分類された胎土の鉱物・岩石組成のうち、土師器の胎土に認められ たK1類は、上述の地質学的背景とよく一致する。また、K2類も含めるとK類の組成およびA類としたも のの花崗岩類が含まれないか極めて微量のためK類に修正すべき組成は、これまでの分析例においても、加 古川下流域に分布する遺跡(坂元Ⅲ、坂元Ⅱ、大中、溝之口の各遺跡)出土の弥生土器や土師器の胎土の主 体を占めている。したがって、今回の試料のうち、報告No.46の土師器甕については、坂元遺跡周辺を含む 加古川下流域で製作された可能性が高いと考えられる。ただし、上述したこれまでの分析例では、K1類よ りも K 2 類の方が多い傾向が窺える。今後は、火山ガラスの量比において有意に分類される K 1 類と K 2 類 の間で、加古川下流域内のより局所的な地域性があるか否かなどを検討する必要があると考えられる。

B類の胎土については、角閃石の量比やほとんど花崗岩類のみという岩石片の組成において、上述したK類とは明らかに異質な地質学的背景に由来すると考えることができる。これまでの兵庫県内における弥生土器の胎土分析例では、B類の出現は非常に限定的であり、例えば伊丹市の小阪田遺跡の弥生土器では、生駒西麓産とされた土器にのみ認められている(矢作・石岡,2006)。今後、実際に生駒西麓産の弥生土器の分析事例を得た上でB類の地域性を検討すべきであろう。

#### 引用文献

藤田和夫・笠間太郎, 1983, 神戸地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 115p. 猪木幸男, 1981(20万分の1地質図幅), 姫路. 地質調査所.

河田清雄・宮村 学・吉田史郎, 1986 (20万分の1地質図幅), 京都及大阪, 地質調査所.

栗本史雄・牧本 博, 1990, 福知山地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 97p. 栗本史雄・松浦浩久・吉川敏之, 1993, 篠山地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 85p. 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察 – 岩石学的・堆積学的による – . 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.

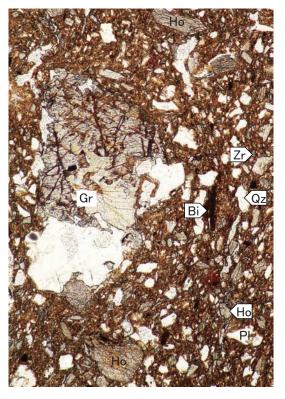
日本の地質「近畿地方」編集委員会, 1987, 日本の地質6 近畿地方.共立出版, 297p.

尾崎正紀・松浦浩久, 1993, 三田地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 地質調査所,93p.

尾崎正紀・栗本史雄・原山 智, 1995, 北条地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 100p.

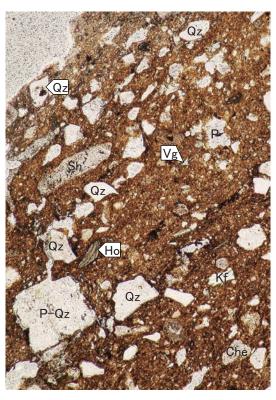
吉川敏之・栗本史雄・青木正博, 2005, 生野地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 産総研地質調査総合センター, 48p.

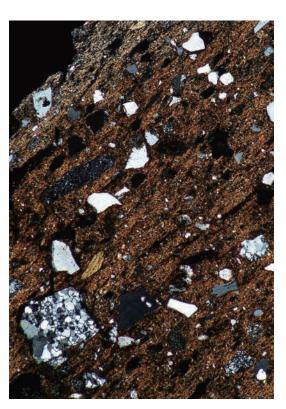
#### 第7図 胎土薄片





1.報告No.13(SK03 弥生時代 弥生土器 甕?底部)





2.報告No.46(SX10 古墳時代 土師器 甕)

0.5 mm

Qz:石英. Kf:カリ長石. PI:斜長石. Ho:角閃石. Bi:黒雲母. Zr:ジルコン. Che:チャート. Sh:頁岩. P-Qz:多結晶石英. Gr:花崗岩. Vg:火山ガラス. P:孔隙. 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

# 第6章 総 括

坂元遺跡では、竪穴住居 2 棟、掘立柱建物 4 棟、古墳 4 基、木棺墓 2 基、土坑墓 4 基、旧流路を検出した。 また、検出したなかから土坑は19基、溝は 6 条を報告した。57区では、弥生時代前期の土器片が旧流路から 出土している。弥生時代から律令期ころまで氾濫源や後背湿地等の低湿地であったと考えられる。その後は 水田等の耕作地として利用されている。58・59区は河岸段丘上の安定した立地条件にあり、古墳時代には墓 域、中世には大溝が掘削されるなど土地の開発が行われている。

古墳はいずれも墳丘は削平されており、埋葬施設が残っていたのは3基である。SX08、SX09の棺内からは水銀朱が検出された。SX08の水銀朱は鮮やかな朱色であり、棺内全域に撒かれている。水銀朱を葬送儀礼に用いるのは、近畿から瀬戸内沿岸地域の主要な古墳に見られ、これらと同様の葬送儀礼が、坂元遺跡の小規模な古墳にも採用されていることが判明した。出土した遺物からこれら古墳は6世紀前半に築造されたと考えられる。これまでの調査によって、坂元遺跡では6世紀初めから古墳が築かれ、6世紀後半まで造営が続くことが判明している。また、埴輪窯跡も発見されているが、今回の古墳から、埴輪は出土していない。今回の調査地の南側では、古墳時代の集落跡が見つかっている。その北側に位置する段丘状は墓域として利用されていたことが判明した。

SD02は、幅6~7mもある大型の溝である。東播系須恵器や瓦が埋土中から出土しており、鎌倉時代に掘削されたと考えられる。また、溝からは6世紀代の土器が多く出土しているため、調査区中央部にもかつて古墳が存在し、溝掘削に伴う中世の造成によって古墳が破壊されたと考えられる。この溝はほぼ南北に方位を持つ。坂元遺跡では、奈良時代前半と後半で条理プランの変更があることが判明しているが、このうち正方位プランは奈良時代前半のものである。中世において、再度正方位を意識した土地区画が行われた可能性が考えられる。

溝之口遺跡で行った調査は、集落中心部が立地する微高地から外れた低湿地および氾濫源である。検出した遺構は8世紀代の水田畦畔および溝である。水田面やその上層にあたる包含層から播磨国府系の瓦、須恵器綾椀など比較的時期差のない遺物がまとまって出土している。調査区北側の微高地では、奈良時代から平安時代の掘立柱建物が検出されているため、これら遺物はその集落に由来する可能性が高い。検出した水田は、その後中世に至っても水田であり、おそらく現在まで水田であり続けたと考えられる。こうした水田適地の存在が溝之口遺跡や坂元遺跡における集落の立地を決定し、その規模を中世まで維持できた一因であろう。

東播磨を代表する2つの遺跡を調査した。両遺跡ともに、別府川に恩恵を受ける生産域に隣接した段丘上 や微高地上に立地している。両遺跡は、これら生産域を挟んで立地する関係であることがわかる。水田耕作 の始まった弥生時代以降、このような生産域を確保し、その周辺に集落が発展する様子が、両遺跡で行われ た調査で確認することができる。

#### 参考文献

加古川市教育委員会 『溝之口遺跡発掘調査報告書 I 』 1992 兵庫県教育委員会 『溝之口遺跡』 2006

兵庫県教育委員会 『坂元遺跡Ⅱ』 2009

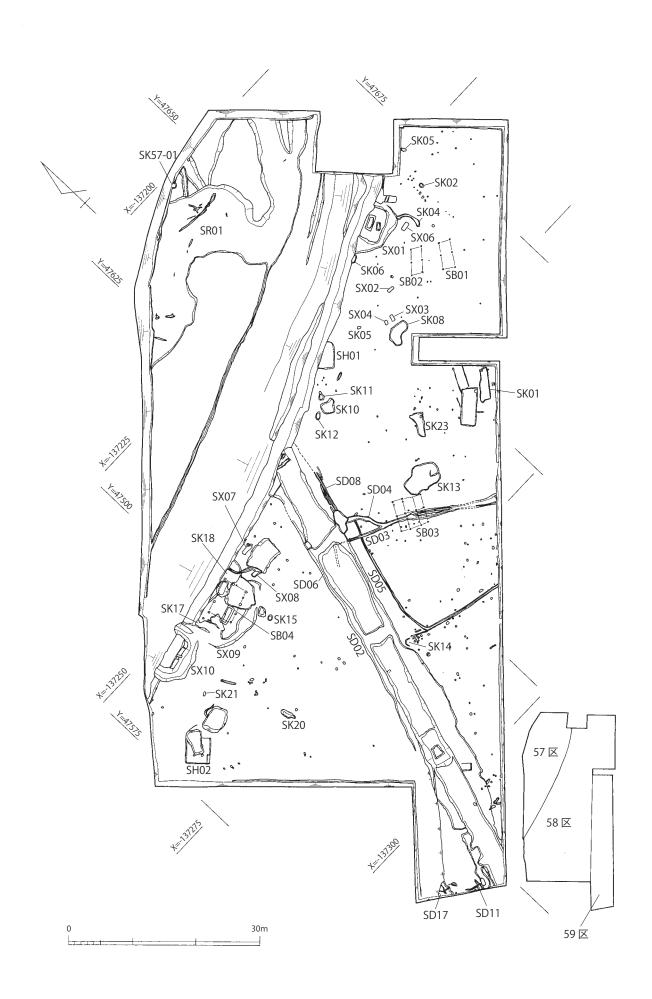
#### 表3 遺物観察表1

報告	回胎							(cm)					残存				T
番号	番号	種別	器種	口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	重量(g)	その他	口縁	底	他	備考1	出土地区	出土遺構
1		土師器	高杯	(19.9)	(7.7)	7.54 7.55		120		(8/	, ,,,	1/3	7.24	体 2/3		58区	SH02
2		土師器	高杯	(14.35)	(5.7)							1/12		体 1/3		58区	SH02
3		土師器	高杯	(1100)	(5.7)							近完		体近完		58区	SH02
4		土師器	高杯	(14.1)	(6.4)							2/3		体 2/3		58区	SH02
5		土師器	高杯	(11,1)	(2.6)							2/0		体 1/3		58区	SH02
6		土師器	高杯		(2.4)									体 1/3		58区	SH02 P003
7		土師器	高杯		(4.7)									脚 2/3		58区	SH02 F003
											腹径			頸 1/12			
8	21	土師器	甕	(8.1)	(11.05)						(11.9)	1/16		体 1/4		58区	SH02
9		土師器	甕	(15.45)	(13.35)							1/3		頸・体 1/3		58区	SH02
10		須恵器	椀	(13.0)	(4.5)							1/8		体 1/8		58区	SB01-P041
11		須恵器	甕	(37.7)	(10.3)							1/3		体 1/4		58区	SK06
12		土師器	甕	(12.7)	(6.2)							1/12		頸・肩 1/6		58 ⊠	SK13
13		弥生	甕		(2.9)	6.0							3/8			59 ⊠	SK13
14		土師器	高杯		(3.7)									脚 1/3		58 区	SK18
15		須恵器	椀	(16.25)	(2.5)							1/4 弱		77. 27. 2		58区	SK18
						(0.45)					腹径		15,44	頸 2/3・体			
16		弥生	壷	(12.6)	26.7	(6.45)					(26.5)cm	2/3	近完	1/3		58区	SK20
17		土師器	甕	(14.6)	(3.0)							1/8				58区	SD02
18		土師器	甕	(15.8)	(3.7)							1/16 未満		頸 1/16 強		58区	SD02
19		土師器	甕	(15.7)	(6.3)									口頸 1/8 強		59区	SD02
20		土師器	高杯		(7.65)									脚 7/8		58区	SD02
21		土師器	高杯		(5.8)									脚上部		58区	SD02
														ほぼ完			
22		土師器	高杯		(5.9)									脚上部 2/3		58区	SD02
23	22	土製品	不明		(2.9)									小片		59区	SD02
24		土師器	小型壷		(4.1)								完			59区	SD02
25		須恵器	高杯		(8.2)	(12.2)							わずか	脚 1/2 弱		59区	SD02
26		須恵器	壷	(7.4)	(3.1)							1/8				59区	SD02
27		須恵器	壷		(2.8)									肩部 ?1/8		58区	SD02
28		須恵器	椀		(2.75)	(4.8)							1/8 強	体下部 1/4		58区	SD02
29		須恵器	椀		(2.1)	5.5							3/8			58区	SD02
30		須恵器	椀		(2.75)	5.5							1/2 強			58区	SD02
31		須恵器	鉢	(31.4)	(3.0)							1/16 未満				58区	SD02
32		瓦	丸瓦				(17.15)	16.55	2.2					1/3 程度?		58区	SD02
33	23	土師器	小型丸底壷	(11.0)	(7.5)						腹径	1/8		体 1/4		59区	SD07
				(11.0)	(1.0)						(11.1)cm	17.0					
34		土製品	土錘				(4.25)	1.35		9.8				2/3?		58区	SX01
35		土製品	土錘				(3.6)	1.4		6.5				両端欠		58区	SX01
36		土製品	土錘				5.3	1.25		5.8				完		58区	SX01周溝
37		土師器	高杯	(23.0)	(9.4)							1/5		体 1/2		58区	SX09周溝
38		土師器	高杯		(7.1)	(10.0)								脚 4/5		58区	SX09周溝
39		土師器	高杯		(7.65)									脚 3/4		58区	SX09周溝
40		土師器	高杯	(16.0)	(14.6)	(10.7)						極少		体 1/3		58区	SX10周溝
$\vdash$	24			/		/	-					-		脚 2/3 杯 1/2 脚·端			
41		土師器	高杯		(12.5)									部以外完形		58区	SX10
42		土師器	高杯	(16.0)	(3.75)							1/8 未満		体 1/4		58区	SX10
				(10.0)	· ·							1/0 小側		未満			
43		土師器	高杯		(6.3)						The Cor			脚上半完		58区	SX10
44		土師器	甕	(13.3)	25.25						腹径	1/12	近完	頸 1/3		58区	SX10
											(21.7) 腹径			体 1/2 頸 2/3			
45		土師器	甕	(15.5)	(21.3)						(21.9)	極少		体 1/3		58区	SX10
46		土師器	甕	(15.6)	(5.0)							わずか		頸 1/4		58区	SX10
47		土師器	甕	15.6	(5.9)							口~頸 3/4				58区	SX10
48		土師器	甕	(10.3)	(4.3)							3/4		頸 3/4		58 区	SX10
				,										脚 1/2			
49	25	土師器	壷		(7.0)									体上部 1/4		58区	SX10
50	20	土師器	甕	(14.2)	(9.6)							1/2弱		頸 7/8		58区	SX10
51		須恵器	器台		(4.0)									杯部小片		58区	SX10
52		須恵器	腿		(9.0)						腹径		完	頸 2/3		58区	SX10
$\vdash$											(10.85)			体完			
53		須恵器	椀		(3.8)	5.5					胎忽		1/2	体下部 1/4		58区	SX10
54	27	弥生	壷		(20.0)	7.8					腹径 22.6cm		1/2 強	体 1/2 強		57区3区西	SR01

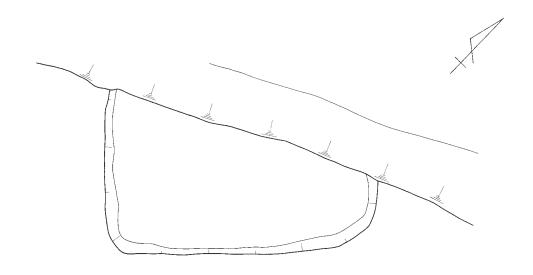
報告	回旧							(cm)					残存				
番号	番号	種別	器種	口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	重量(g)	その他	口縁	底	他	備考1	出土地区	出土遺構
55		土師器	不明	(27.6)	(3.85)	734,23	711	1144				1/8 未満	7.24	,		57 区 4 区西	SR01
56		弥生	甕	(21.0)	(4.5)							27 0 7 1 4 1 7 4		小片		57区6区西	包含層
57		土師器	高杯		(5.6)									体 1/5		58区	包含層
58		弥生	甕	(31.5)	(14.1)						腹径	1/16 未満		体上部 1/8		57区7区西	包含層
$\square$		須恵器									(30.0)cm					57区7区四	
59			杯身	11.6	4.3							1/2	1 /0 22	体 5/8			包含層
60		須恵器	杯身	(40.45)	(1.65)								1/2 弱			58区1区	包含層
61	27	須恵器	杯蓋	(18.15)	(1.4)	(0.0=)						1/12	4.10			58区9区	包含層
62		須恵器	杯身	()	(2.4)	(8.25)							1/2				包含層
63		須恵器	椀	(13.8)	(2.8)							1/24				58区1区	包含層
64		須恵器	小鉢	(22.05)	(3.65)							1/16				58区2区	包含層
65		須恵器	鉢	(29.95)	(4.3)							1/16				58区7.8区	包含層
66		須恵器	鉢	(26.95)	(4.1)							1/12 弱				58区9区	包含層
67		須恵器	摺鉢	(22.0)	(4.8)							1/12				58区2区	包含層
68		土製品	土錘				(4.1)	2.0		14.2 g				1/2弱?		58 区 7⋅8 区	包含層
69		須恵器	台付皿	(13.5)	(3.15)	(7.2)						1/8弱	1/4	体 1/3		59区	包含層
70		須恵器	椀	(15.55)	(5.4)							1/5		体 1/3		59区	包含層
71	28	須恵器	椀	(16.85)	(2.1)							1/9				59区	包含層
72		磁器	小皿		(1.4)	(6.0)							1/6			59区	包含層
73		須恵器	面子				4.0	4.0	0.55					完形		59区	包含層
74		土師器	小壷?		(1.75)							極小				西区	SD03
75		須恵器	杯蓋	(15.44)	(1.8)							1/8		体 1/8		東区	水田面
76		須恵器	杯蓋	(18.45)	(1.2)							1/8				東区	水田面
77		須恵器	杯蓋	(17.7)	(1.9)							1/16		体 1/16		東区	水田面
78		須恵器	杯蓋	(16.9)	(1.75)							1/8弱				東区	水田面
79		須恵器	杯蓋	(19.7)	(1.7)							1/10				東区	水田面
80		須恵器	杯蓋	(10.17)	(1.5)							17 10		つまみ部分		東区	水田面
81		須恵器	杯	(10.05)	2.85	(7.9)						1/6	1/4	体 1/5		東区	水田面
82		須恵器	杯	(14.2)	(2.8)	(1.5)						1/7	1/ 1	体 1/7		東区	水田面
83	31	須恵器	杯	(12.7)	3.1	(9.7)						1/4	1/4	体 1/4		東区	水田面
84		須恵器	杯	(12.7)	2.8	(9.15)						1/8	1/4弱	体 1/8	転用硯	東区	水田面
85		須恵器	稜椀	(12.9)	(3.5)	(9.13)						1/15	1/4 33	体 1/15	料加地	東区	水田面
-		須恵器	杯	(19.2)		(10.1)						1/ 10	1 /E	1/13		東区	水田面
86		須恵器	杯		(1.3)	(8.05)							1/5				水田面
87										1							小田田
1 00 1			+			-										東区	
88		須恵器	杯	(10.45)	(2.7)	(11.7)						1.0	1/4 弱	H 1 /0		東区	水田面
89		須恵器 須恵器	杯 台付皿	(18.45)	(2.7) 3.95	(11.7) (8.7)						1/8	1/4 弱 1/4 弱	体 1/8		東区 東区	水田面 水田面
89 90		須恵器 須恵器 須恵器	杯 台付皿 台付皿	(18.45) (17.85)	(2.7) 3.95 3.5	(11.7)		( )				1/8 1/4	1/4 弱	体 1/4		東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面
90 91		須恵器 須恵器 須恵器 土製品	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壷	-	(2.7) 3.95	(11.7) (8.7)		(4.3)					1/4 弱 1/4 弱	体 1/4 つまみ部分		東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92		須恵器 須恵器 須恵器 土製品 瓦	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壷 軒丸瓦	-	(2.7) 3.95 3.5	(11.7) (8.7)	(6.9)	(7.7)					1/4 弱 1/4 弱	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片		東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
90 91 92 93		須恵器 須恵器 須恵器 土製品 瓦 瓦	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壷 軒丸瓦 平瓦	-	(2.7) 3.95 3.5	(11.7) (8.7)	(9.1)	(7.7) (6.9)	1.85				1/4 弱 1/4 弱	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片		東区 東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92	32	須恵器 須恵器 須恵器 土製品 瓦 瓦	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壷 軒丸瓦	-	(2.7) 3.95 3.5	(11.7) (8.7)		(7.7)	1.85				1/4 弱 1/4 弱	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片		東区 東区 東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92 93 94 95	32	須恵器 須恵器 土製品 瓦 瓦 瓦	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壺 軒丸瓦 平瓦 平瓦	(17.85)	(2.7) 3.95 3.5 (4.5)	(11.7) (8.7) (9.5)	(9.1)	(7.7) (6.9)				1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片		東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
90 91 92 93 94 95 96	32	須恵器 須恵器 土製品 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 東 器	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壺 軒丸瓦 平瓦 平瓦 平瓦	(17.85)	(2.7) 3.95 3.5	(11.7) (8.7) (9.5)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 破片		東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92 93 94 95 96 97	32	須恵 類恵恵 東恵 東東 東東 東 東 東 東 東 東 東	杯         台付皿         飯蛸壺         軒丸瓦         平瓦         平瓦         杯         杯	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片		東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	32	須恵器器 土瓦瓦瓦瓦東惠器 工瓦瓦瓦東惠器器 東惠器器器	杯 台付皿 台付皿 飯蛸壺 軒丸瓦 平瓦 平瓦 平瓦 杯 杯	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 破片	転用硯	東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面
89 90 91 92 93 94 95 96 97	32	須恵忠器 土瓦瓦瓦瓦東惠惠 五瓦瓦東惠惠 五瓦瓦東惠惠 五瓦瓦 五瓦東惠郡 五東惠郡 五東惠郡 五東惠郡	杯 台台飯輔丸瓦 平瓦瓦 平瓦 平 平 杯 杯 臺 董	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 破片	転用硯	東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区	水田面
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	32	須恵惠器 器 五瓦瓦瓦瓦 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須	杯 台台飯輔丸瓦 平瓦瓦 平瓦 杯 杯 靈 董	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 破片	転用硯	東区東東区東東区東東区東区東区東区東区東区東区東区西区東区区東区区東区区西区区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99	32	須恵忠器 土瓦瓦瓦瓦東惠惠 五瓦瓦東惠惠 五瓦瓦東惠惠 五瓦瓦 五瓦東惠郡 五東惠郡 五東惠郡 五東惠郡	杯 台台飯輔丸瓦 平瓦瓦 平瓦 平 平 杯 杯 臺 董	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0)	(9.1) (10.6) (11.3)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区東区	水田面 水田面 水田面面 水田面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100	32	須恵惠器 器 五瓦瓦瓦瓦 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須 須	杯 台台飯輔丸瓦 平瓦瓦 平瓦 杯 杯 靈 董	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6)	(7.7) (6.9) (6.5)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区東東区東東区東東区東区東区東区東区東区東区東区西区東区区東区区東区区西区区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101		須須 須 五 瓦 瓦 瓦 瓦 須 須 須 須 須 須 五 恵 恵 恵 恵 恵 恵 恵 恵 恵 恵 恵 郡 器 器 器 器 器 器 器 器	杯 台台飯軒平平 平 下 瓦 瓦 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 板	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3)	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区東東区東東区東東区東東区東東区東区東区東区西区東区西区東区区東区区東区区区区区区	水田面 水田面 水田面面 水田面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102		須須須五瓦瓦瓦瓦須須須須須土土土土 二五瓦瓦瓦瓦瓦須須須須須土土土土	杯 台台飯軒平平平 平 杯 秦 童 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3)	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区東東区東東区東東区東東区東東区東東区西東区西東区西東区西東区西区東区西区東	水田面       水田面       水田面面       水田田面面面面面面面面面面       包含含層       包含含層       包含含層       包含含層       包含層       包含層       包含層       包含層       包含層
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103		須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦瓦瓦項須須須須土土瓦瓦瓦瓦 惠惠惠惠惠師師器	杯 台台飯軒平平平杯 杯 臺 臺 校 籠 東 丸 瓦 瓦 瓦 板 板 電 板 電 板 板 ん て の ん の ん の も の も の を る し る し の る の る の る の る の る の る の る の る	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1)	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1) (4.2) (4.2)	2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区東東区東東区東東区東東区区東東区区東区区東区区東区区東区区東区区東区区区区区	水田面       水田面面       水田面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104		須須須五瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦瓦瓦須須須須生土瓦瓦瓦瓦瓦東惠惠惠師師師器器器器器器器器器器器	杯 台台飯軒平平平杯 杯 臺 臺 校 籠 軒 軒 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 板 ん ん ん る も 丸 丸 瓦 瓦 丸 丸 丸 瓦 瓦 五 瓦 五 五 五 五 五 五 五 五 五	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65)	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1) (4.2) (4.7) (8.85)	2.0 2.0			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12	転用硯	東区 東東区 東東区 東東区 東東区 東東区 東東区 東区 東区 東区 東区 東	水田面       水田面面       水田田面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面       包含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含       包含含層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層層
99 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1		須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦瓦銀惠惠惠惠師師師器器器器器器器器器器器器器器器器器	杯 台台飯軒平平平杯 杯 臺 臺 椀 竈 軒 軒 鉄 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1) (4.2) (4.7) (8.85) 3.5	2.0 2.0 1.65 0.35			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区	水田面 水田面 水田面面 水田面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面
99 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2		須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄惠恵惠製。	杯台台飯軒平平平杯杯壺壺壺椀竈軒軒鏃鉄	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0	(7.7) (6.9) (6.5) (9.1) (4.2) (4.7) (8.85) 3.5 5.25	2.0 2.0 1.65 0.35 3.3	1.0		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西東区 東区 西東区 西	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面面 水田面面 水田面面 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含
99 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1		須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄鉄石恵恵恵製品。	杯台台飯軒平平平杯杯壺壺壺椀竈軒軒鏃鉄不石ス	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14	(4.2) (4.47) (8.85) 3.5 2.1 1.28	2.0 2.0 2.0 1.65 0.35 3.3 0.45 0.38			1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 西区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1 S2	32 23	須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄石 石恵恵惠縣器品 器器器器器器器器器器	杯 台 台 飯 軒 平 平 平 杯 不 壺 壺 売 板 竈 末 末 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14 7.34	(4.2) (4.4) (4.8) (4.7) (8.85) 3.5 5.25 2.1 1.28 7.05	1.65 0.35 3.3 0.45 0.38	46.2		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1 S2 S3	32	須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄鉄石 石 石惠惠惠縣品 器器器器器器器器器器	杯 台 台 飯 軒 平 平 平 杯 不 壺 壺 壺 枕 竈 束 れ 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14 7.34 2.10	(4.2) (4.2) (4.47) (8.85) 3.5 5.25 2.1 1.28 7.05	2.0 2.0 2.0 1.65 0.35 3.3 0.45 0.38 0.94	46.2		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1 S2 S3 S4	32 23	須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄鉄石 石 石石恵恵惠製品 器器器器器器器器器器	杯 台 台 飯 軒 平 平 平 杯 不 壺 壺 壺 板 竈 転 丸 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14 7.34 2.10 1.66	(4.2) (4.2) (4.7) (8.85) 3.5 5.25 2.1 1.28 7.05 1.54 1.98	2.0 2.0 2.0 1.65 0.35 3.3 0.45 0.38 0.94 0.33	46.2 0.6 0.7		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層
99 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1 S2 S3 S4 S5	32 23	須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄石 石 石石石惠惠惠製品 器器器器器器器器器器	杯 台 台 飯 軒 平 平 平 杯 不 壺 壺 壺 板 竈 転 丸 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14 7.34 2.10 1.66 1.87	(4.2) (4.2) (4.7) (8.85) 3.5 5.25 2.1 1.28 7.05 1.54 1.98 1.48	2.0 2.0 2.0 1.65 0.35 3.3 0.45 0.38 0.94 0.33 0.35 0.34	46.2 0.6 0.7 0.5		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 58 区 58 区 58 区 58 区 58 区 58 区 58 区 58	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含層 包含含
89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 M1 M2 M3 S1 S2 S3 S4	23 25	須須須土瓦瓦瓦瓦須須須須須土土瓦瓦鉄鉄鉄石 石 石石恵恵惠製品 器器器器器器器器器器	杯 台 台 飯 軒 平 平 平 杯 不 壺 壺 壺 板 竈 転 丸 丸 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	(17.85)	(27) 3.95 3.5 (4.5) 2.8 3.0 (3.0) (6.0) (3.7)	(11.7) (8.7) (9.5) (10.4) (11.5) (10.8) (9.0) (14.05)	(9.1) (10.6) (11.3) (7.6) (3.1) (10.65) 5.2 8.0 2.25 2.14 7.34 2.10 1.66	(4.2) (4.2) (4.7) (8.85) 3.5 5.25 2.1 1.28 7.05 1.54 1.98	2.0 2.0 2.0 1.65 0.35 3.3 0.45 0.38 0.94 0.33	46.2 0.6 0.7		1/4	1/4 弱 1/4 弱 1/2 1/5 1/4 1/3 1/3 3/8	体 1/4 つまみ部分 瓦当破片 破片 破片 破片 体 1/6 体 1/12 破片 破片	転用硯	東区 東区 東区 東区 東区 東区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 東区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区 西区	水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 水田面 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層

報告	에뉴					-	法量	(cm)					残存				
	番号	種別	器種	口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	重量(g)	その他	口縁	底	他	- 備考 1	出土地区	出土遺構
S8		石	石鏃	ПШ	nu iea	EVIL	2.66	1.04	0.30	0.7	(1)	11/200	/EQ	10		58区9区	包含層
T1		石	管玉				2.68	最大径 0.76	0.00	2.34				完形		58区	SX08
T2		ガラス	玉				2.00	最大径 0.28	0.14	0.01				完形		58区	SX09
T3		ガラス	玉					最大径 0.32		0.02				完形		58区	SX09
T4		ガラス	玉					最大径 0.36	0.15	0.03				完形		58区	SX09
T5		ガラス	玉					最大径 0.33	0.29	0.04				完形		58区	SX09
T6		ガラス	玉					最大径0.32	0.2	0.02				完形		58区	SX09
T7		ガラス	玉					最大径0.34		0.02				完形		58区	SX09
T8		ガラス	玉					最大径0.38	0.23	0.03				完形		58区	SX09
T9		ガラス	玉					最大径0.36	0.25	0.03				完形		58区	SX09
T10		ガラス	玉					最大径0.38		0.04				完形	_	58区	SX09
T11		ガラス	玉					最大径0.25		0.01				完形	_	58区	SX09
T12		ガラス	玉					最大径0.32	0.19	0.02				完形	_	58区	SX09
T13		ガラス	玉					最大径0.32	0.2	0.02				完形	_	58区	SX09
T14		ガラス	玉					最大径0.39		0.02				完形	_	58区	SX09
T15		ガラス	玉					最大径0.33	0.18	0.02				完形	_	58区	SX09
T16		ガラス	玉					最大径0.35	0.17	0.02				完形	_	58区	SX09
T17		ガラス	玉					最大径0.33	0.17	0.03				完形	_	58区	SX09
T18		ガラス	玉					最大径0.26	0.9	0.01				完形	_	58区	SX09
T19		ガラス	玉					最大径0.33		0.02				完形	_	58区	SX09
T20		ガラス	玉					最大径0.32	0.22	0.03				完形	_	58区	SX09
T21		ガラス	玉					最大径 0.31	0.21	0.02				完形	_	58区	SX09
T22		ガラス	玉					最大径0.33	0.16	0.02				完形	_	58区	SX09
T23		ガラス	玉					最大径0.27	0.13	0.01				完形	_	58区	SX09
T24		ガラス	玉					最大径0.32	0.27	0.03				完形	_	58区	SX09
T25		ガラス	玉					最大径0.33	0.22	0.03				完形	_	58区	SX09
T26		ガラス	玉					最大径0.26		0.02				完形	_	58区	SX09
T27		ガラス	玉					最大径 0.3	0.16	0.02				完形		58区	SX09
T28		ガラス	玉					最大径0.34	0.22	0.02				完形	_	58区	SX09
T29		ガラス	玉					最大径 0.31	0.21	0.02				完形	_	58区	SX09
T30		ガラス	玉					最大径0.28	0.22	0.02				完形	_	58区	SX09
T31	26	ガラス	玉					最大径0.29		0.02				完形	_	58区	SX09
T32		ガラス	玉					最大径 0.3	0.22	0.02				完形		58区	SX09
T33		ガラス	玉					最大径 0.3	0.19	0.02				完形	_	58区	SX09
T34		ガラス	玉					最大径0.29		0.03				完形	_	58区	SX09
T35		ガラス	玉					最大径0.34		0.02				完形	_	58区	SX09
T36		ガラス	玉					最大径0.29		0.01				完形		58区	SX09
T37		ガラス	玉					最大径 0.31	0.16	0.01				完形	_	58区	SX09
T38		ガラス	玉					最大径0.35	0.21	0.02				完形		58区	SX09
T39		ガラス	玉					最大径0.32	0.29	0.02				完形		58区	SX09
T40		ガラス	玉					最大径0.29		0.02				完形		58区	SX09
T41		ガラス	玉					最大径0.24		0.01				完形	_	58区	SX09
T42		ガラス	玉					最大径0.34	0.23	0.03				完形		58区	SX09
T43		ガラス	玉					最大径 0.3		0.02				完形		58区	SX09
T44		ガラス	玉					最大径0.38		0.03				完形		58区	SX09
T45		ガラス	玉					最大径0.26		0.01				完形		58区	SX09
T46		ガラス	玉					最大径 0.31	0.21	0.03				完形		58区	SX09
T47		ガラス	玉					最大径0.32	0.21	0.01				完形		58区	SX09
T48		ガラス	玉					最大径0.35	0.22	0.03				完形		58区	SX09
T49		ガラス	玉					最大径0.36	0.19	0.02				完形		58区	SX09
T50		ガラス	玉					最大径 0.3	0.21	0.02				完形		58区	SX09
T51		ガラス	玉					最大径0.35		0.04				完形		58区	SX09
T52		ガラス	玉					最大径0.29	0.22	0.02				完形		58区	SX09
T53		ガラス	玉					最大径0.45	0.32	0.07				完形		58区	SX09
T54		ガラス	玉					最大径0.35	0.35	0.06				完形		58区	SX09
T55		ガラス	玉					最大径0.36	0.17	0.02				完形		58区	SX09
T56		ガラス	玉					最大径0.32	0.24	0.03				完形		58区	SX09
T57		ガラス	玉					最大径 0.31	0.26	0.02				完形		58区	SX09
T58		ガラス	玉					最大径0.37	0.13	0.02				完形		58区	SX09
T59		ガラス	玉					最大径0.37		0.02				完形		58区	SX09
		10	T-					見上次 0.00	0.23	0.02				/→ π/.		FO IZ	SX09
T60		ガラス	玉					最大径0.28	0.23	0.02				完形		58区	3A09

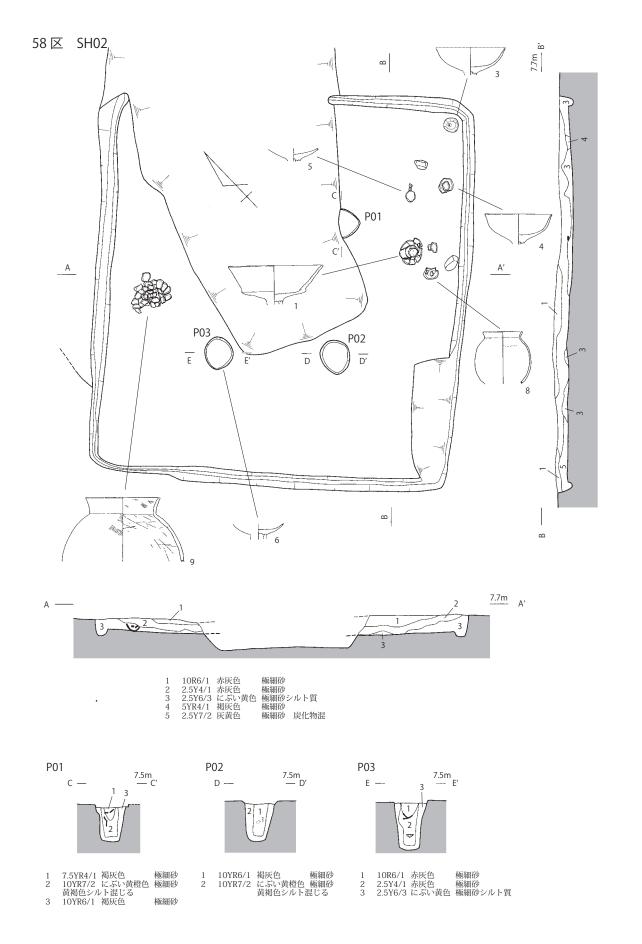
# 図版

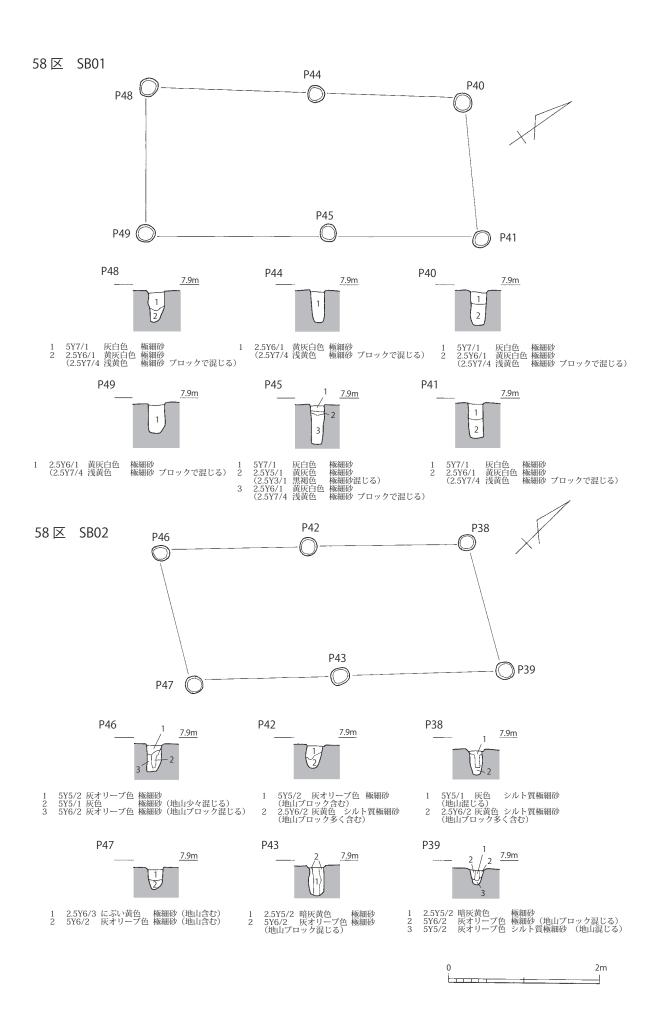


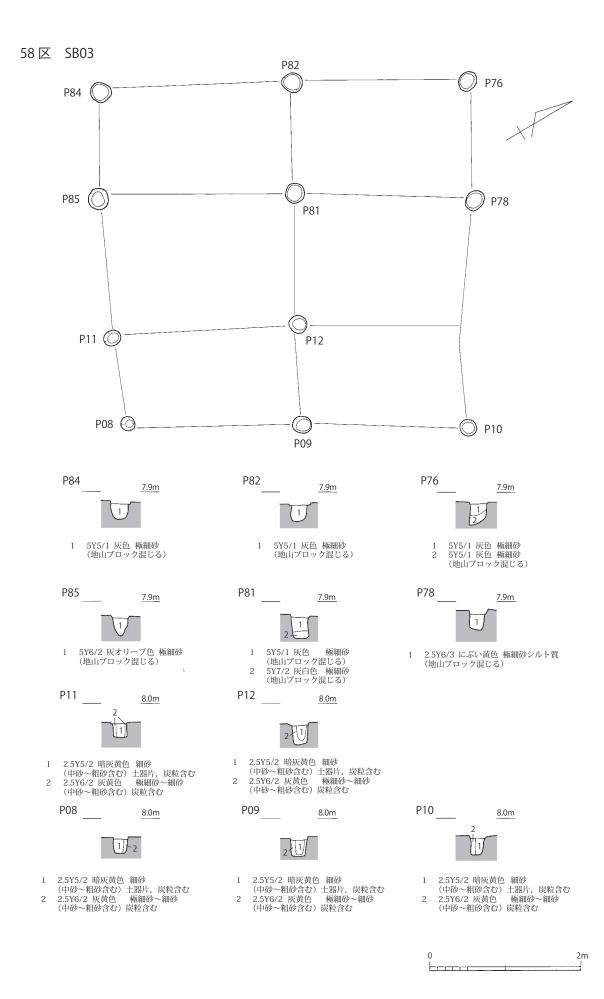
58区 SH01

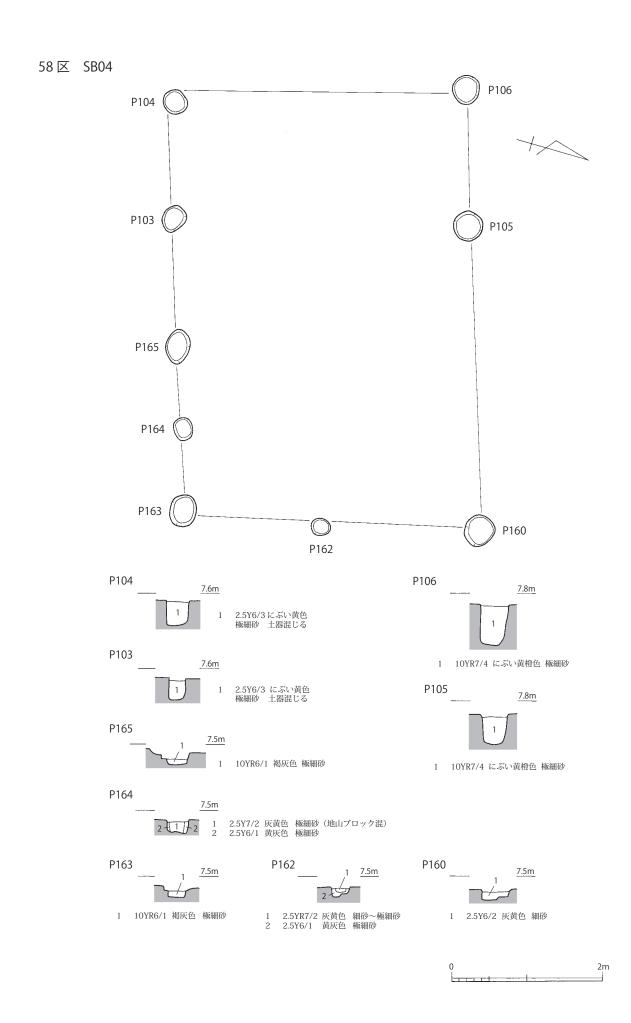


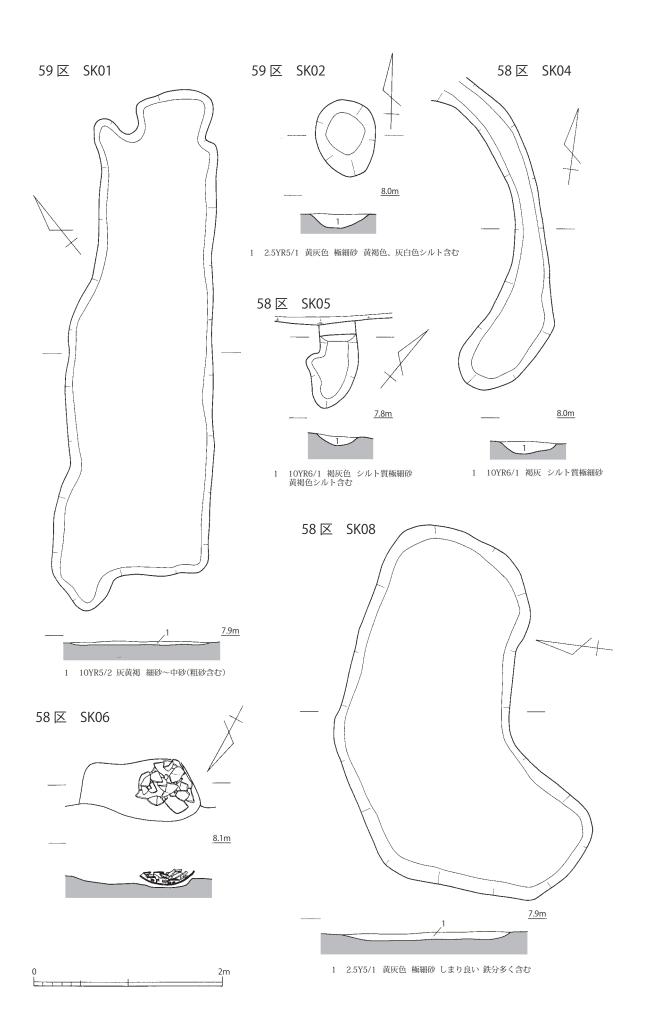


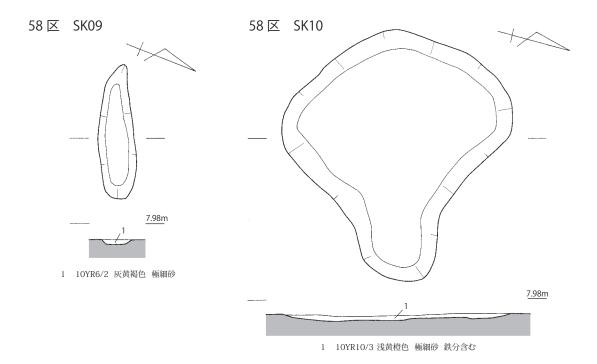


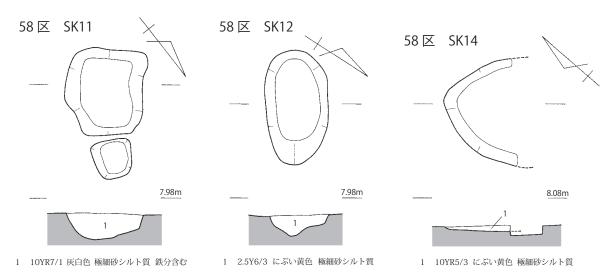


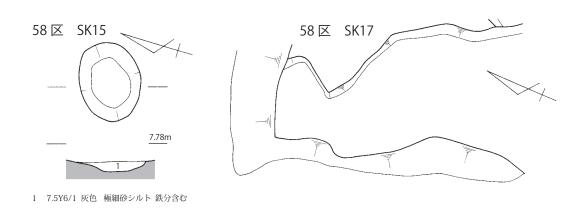






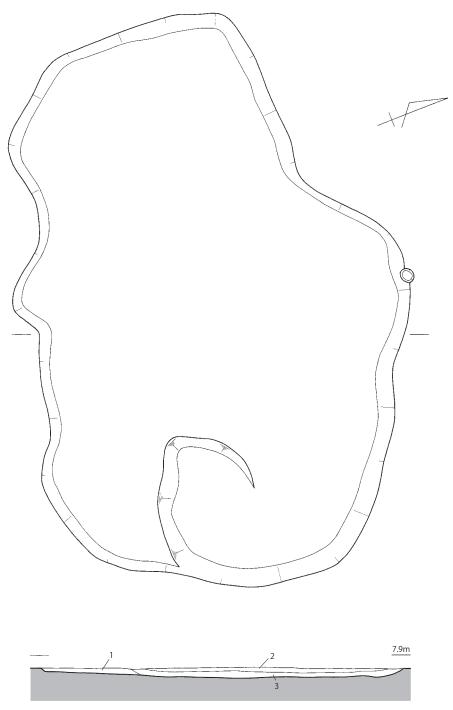


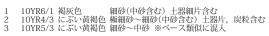


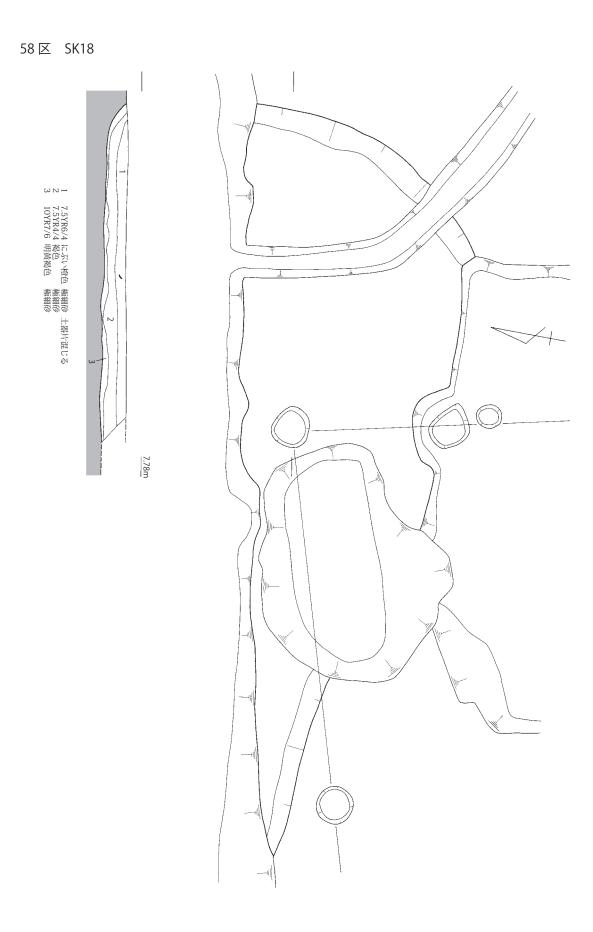


2m

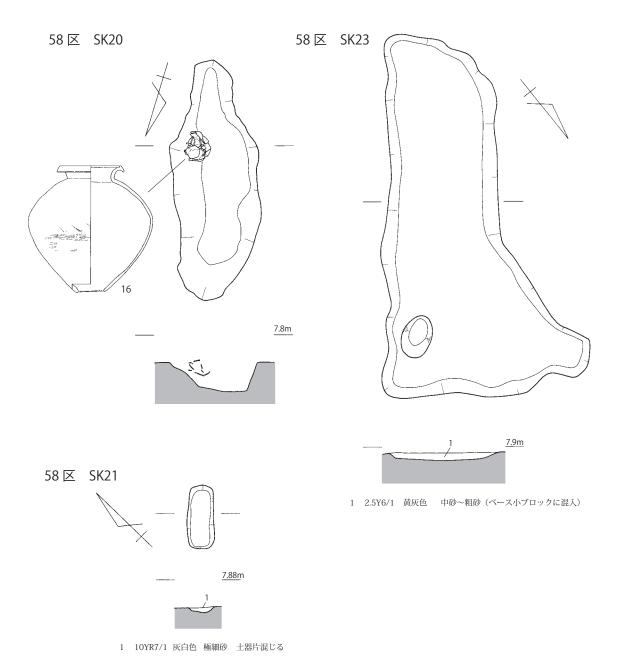
#### 58区 SK13

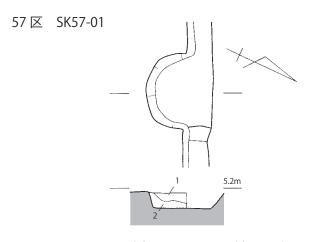






## 図版 11 坂元遺跡 58 区 SK20·21 59 区 SK23 57 区 SK57-01

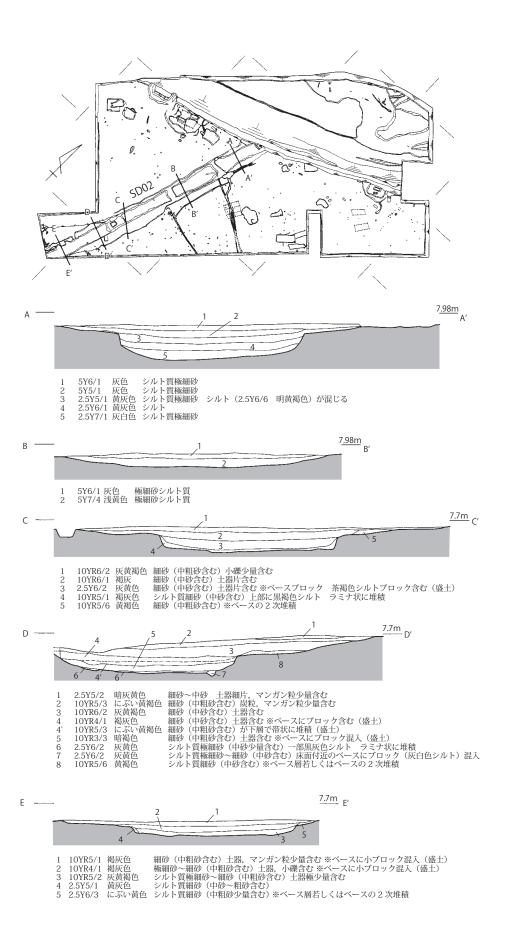




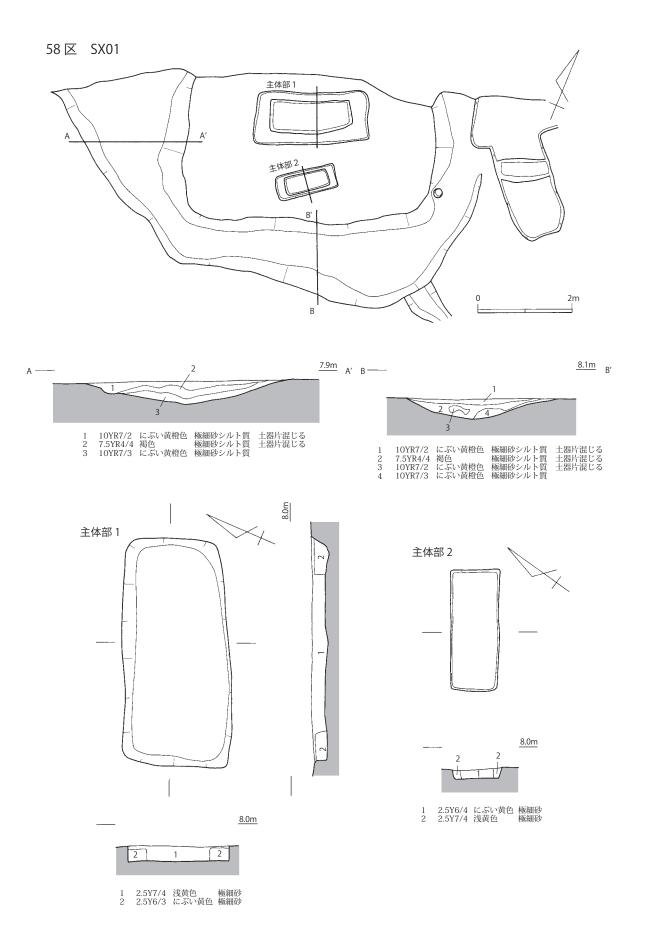
1 10YR3/1 黒褐色 シルト 10YR7/1 灰白色 シルト混じる

2 10YR3/1 黒褐色 シルト

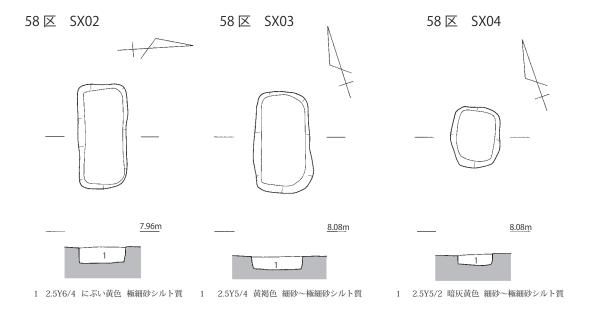


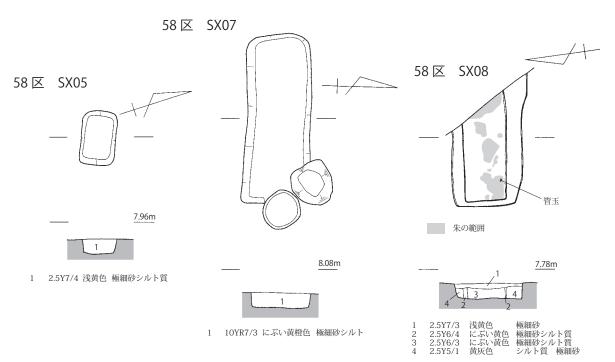


0 4m

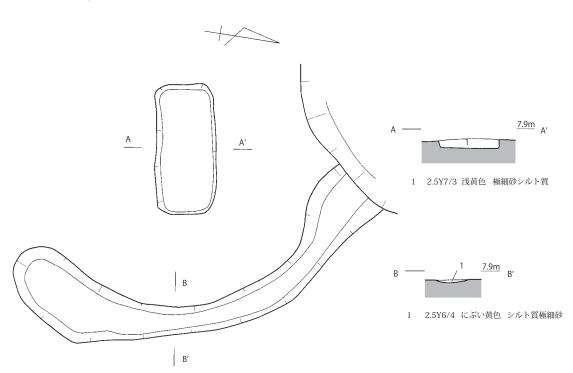


## 図版 14 坂元遺跡 58 区 SX02 ~ 05·07·08

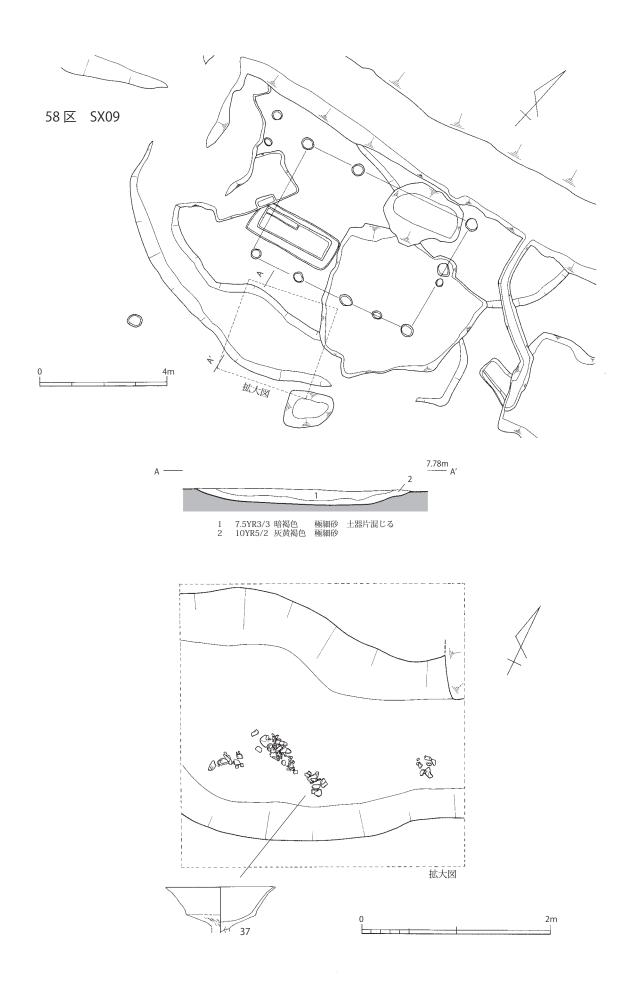




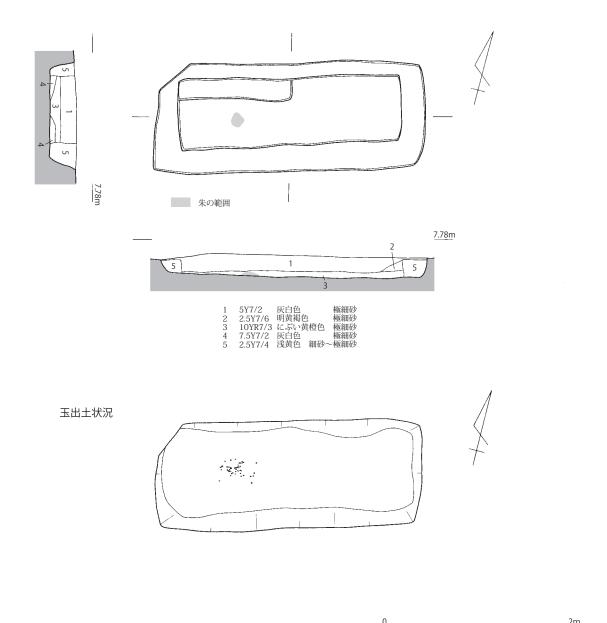


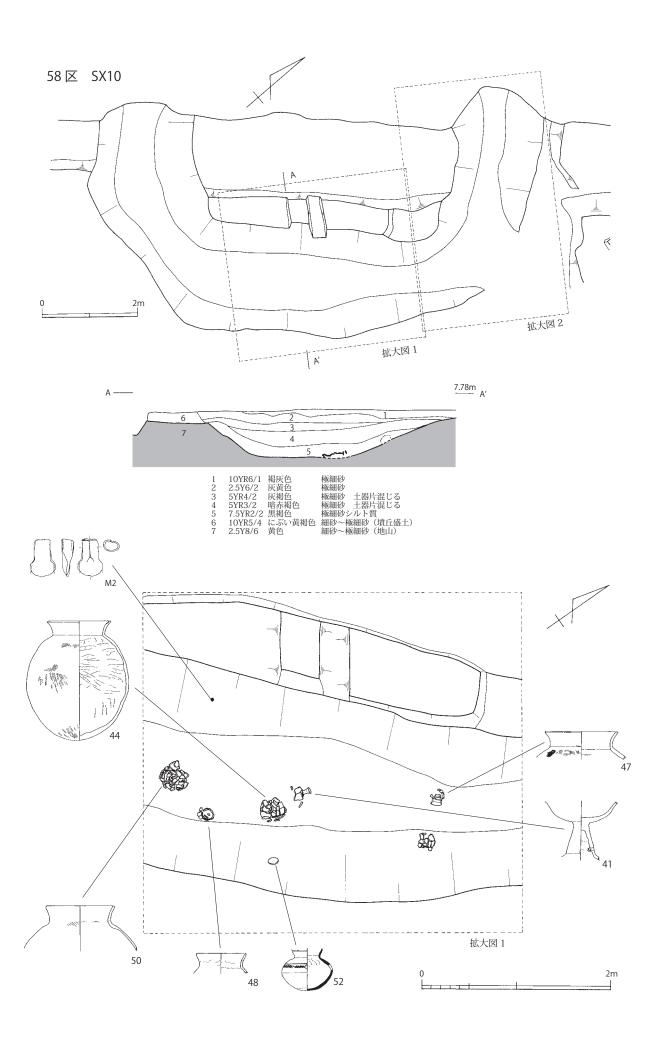


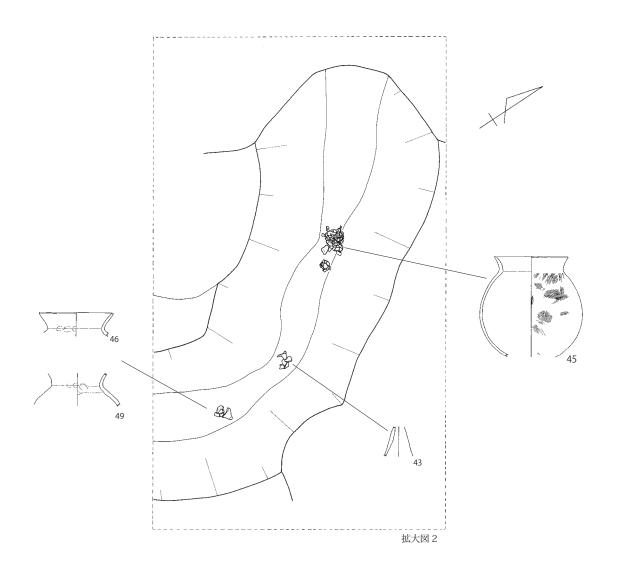
## 図版 16 坂元遺跡 58 区 SX09



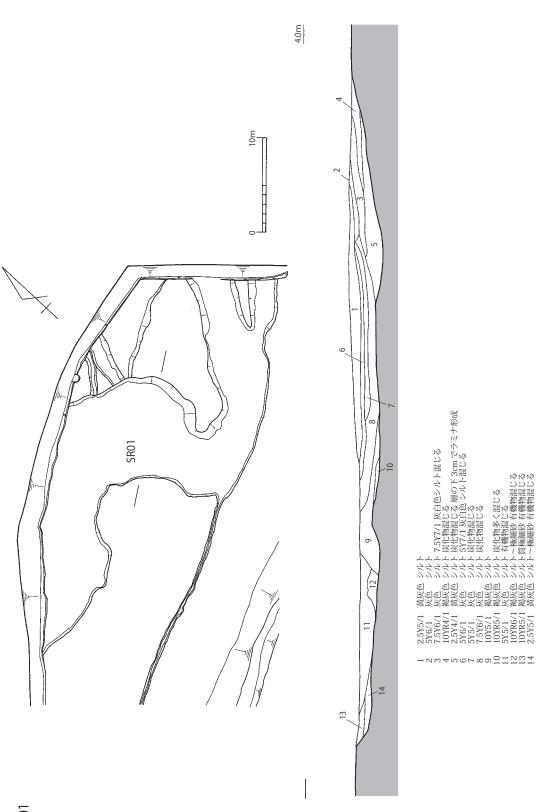
#### 58区 SX09主体部





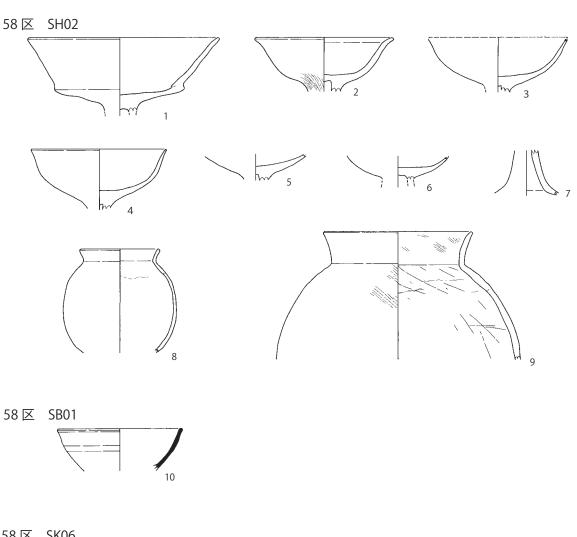


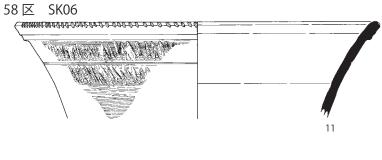
0 2n

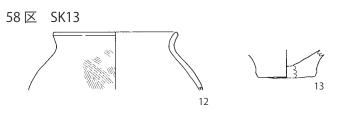


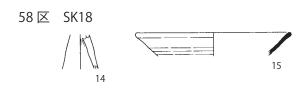
57 ⊠ SR01

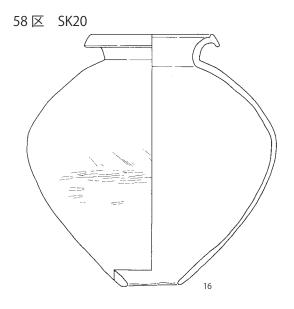
## 図版 21 坂元遺跡 58 区出土遺物 (1)

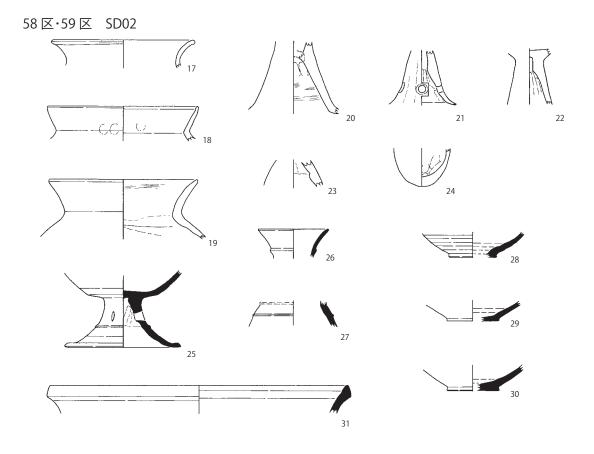


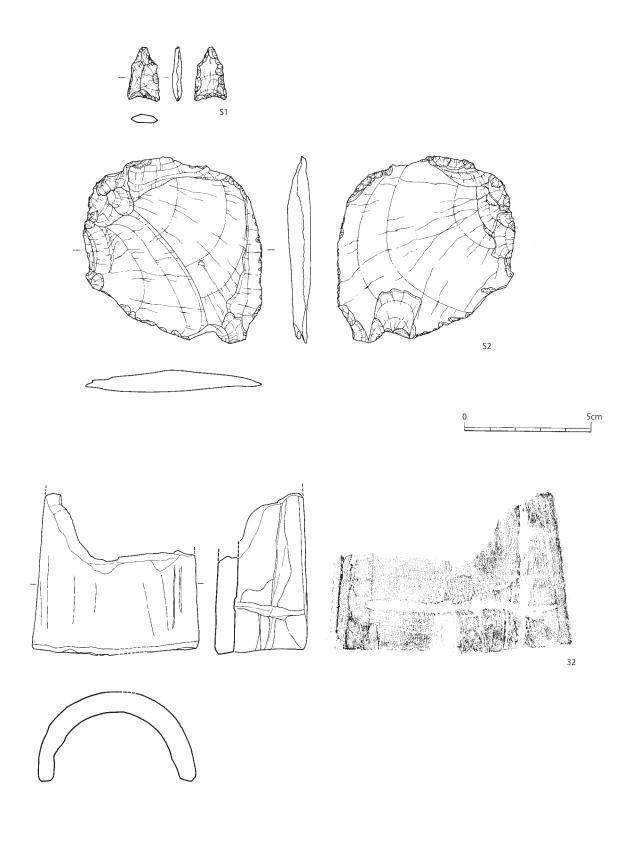




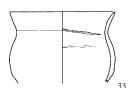






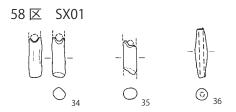


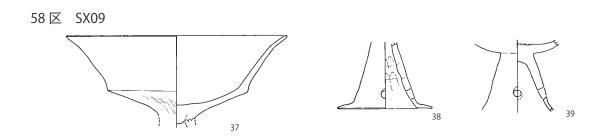


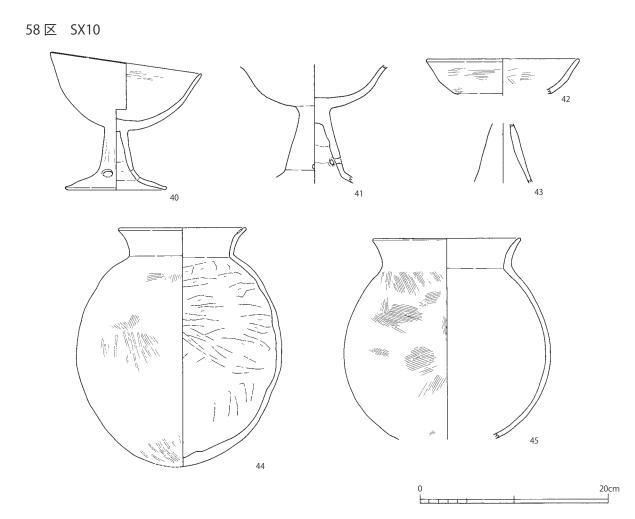




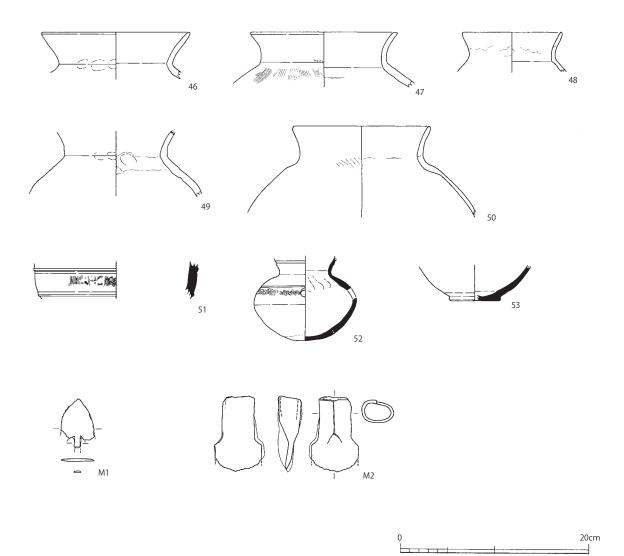
## 図版 24 坂元遺跡 58 区出土遺物 (4)



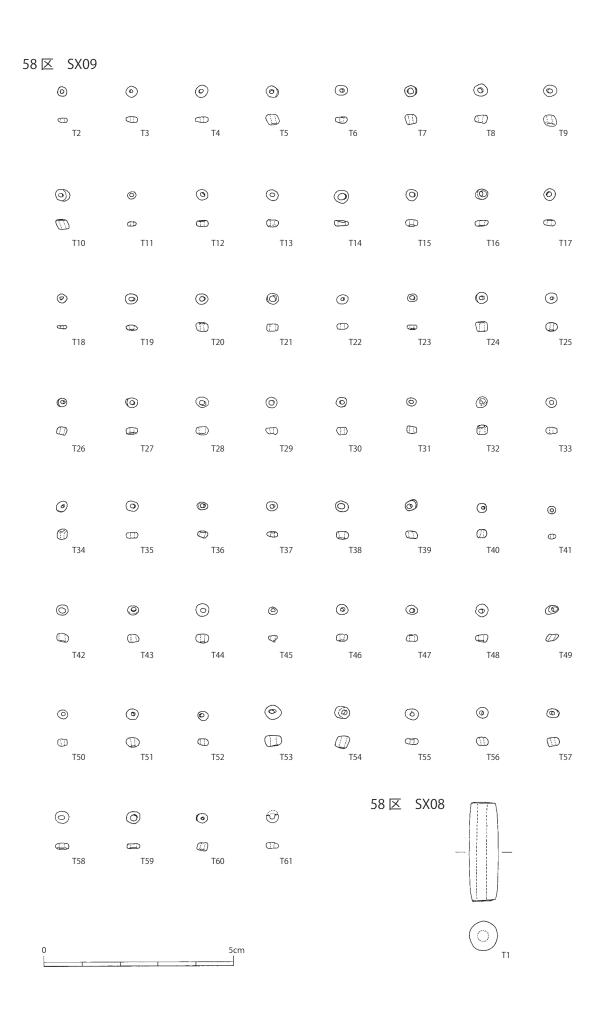


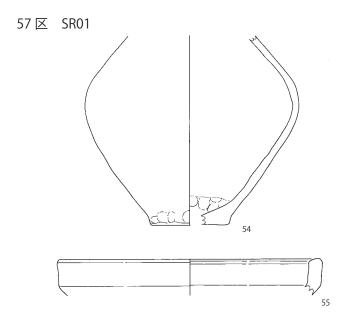


## 図版 25 坂元遺跡 58 区出土遺物 (5)

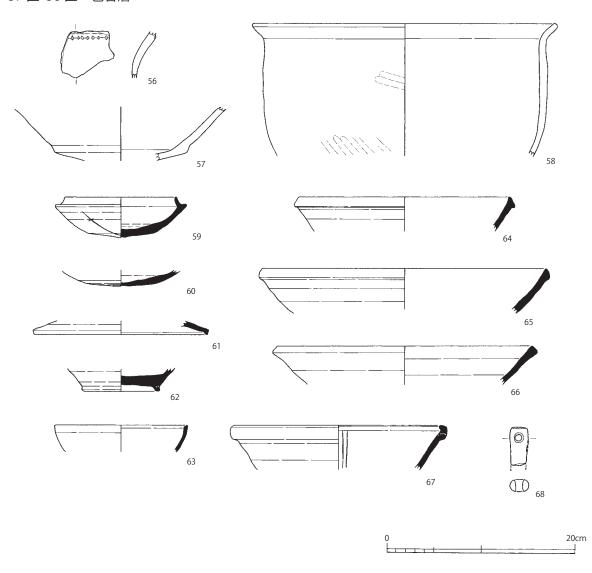


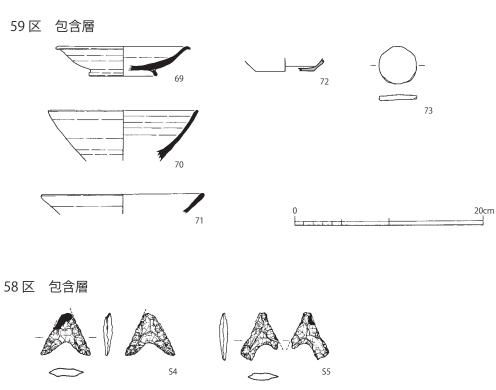


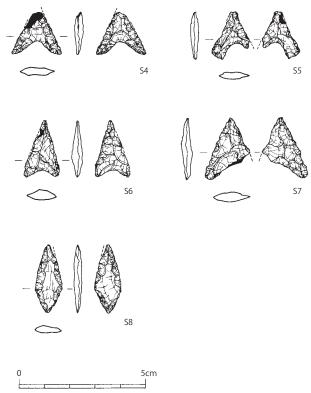


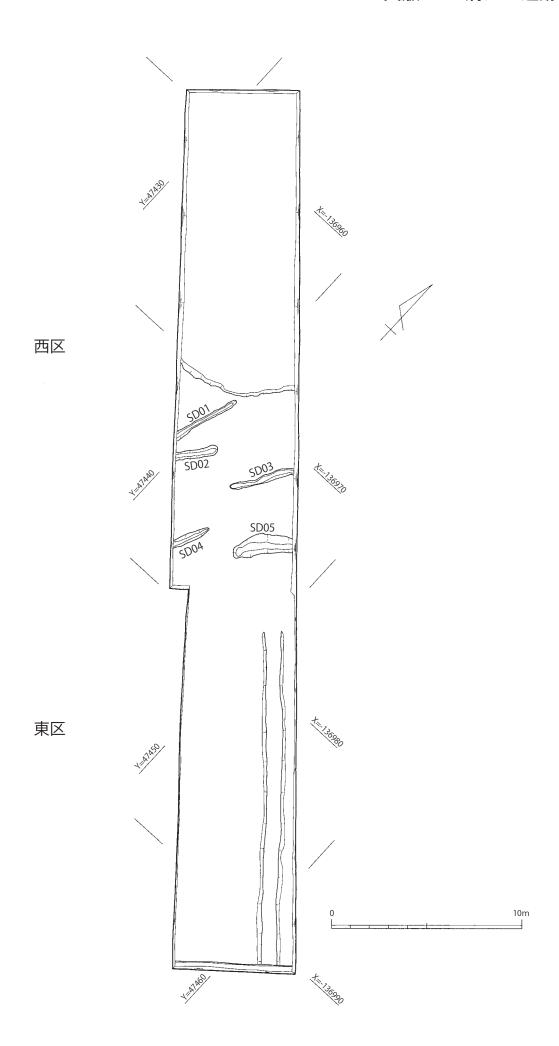


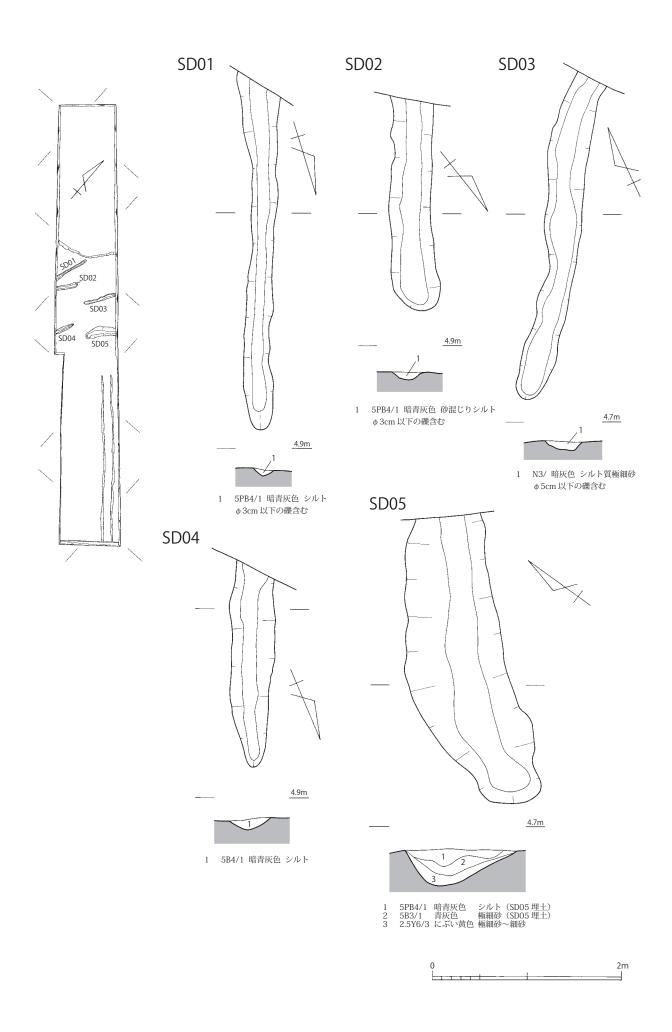
57 区·58 区 包含層



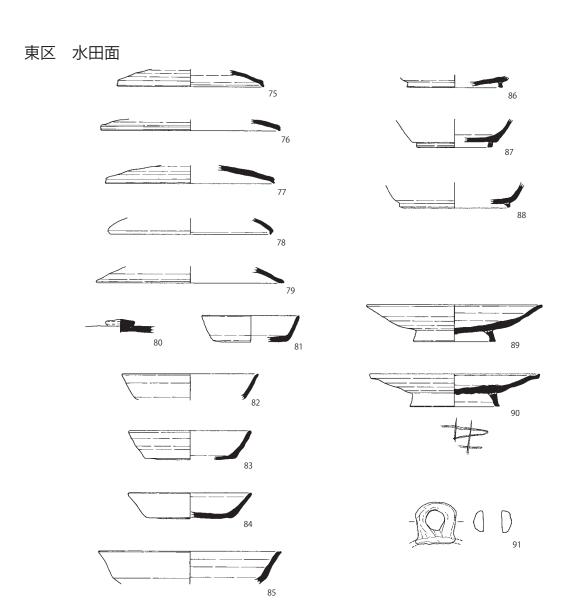


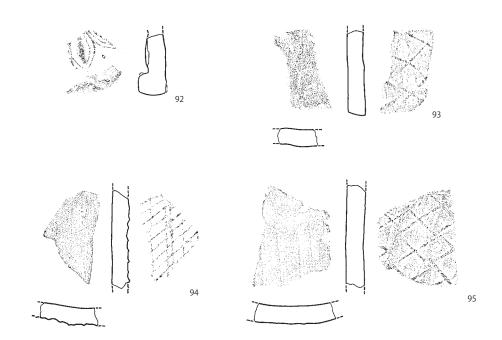




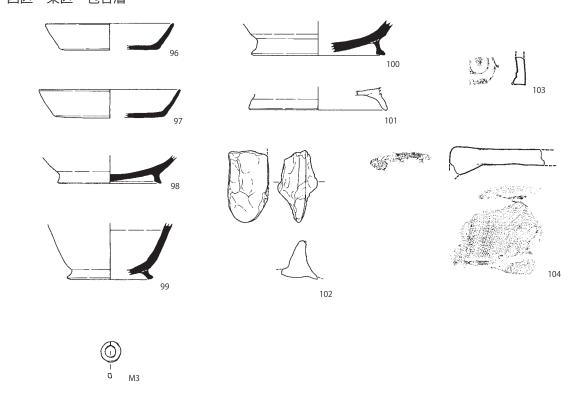








西区・東区 包含層



# 写真図版



遺跡遠景 西から



遺跡遠景 東から



57区 南西から



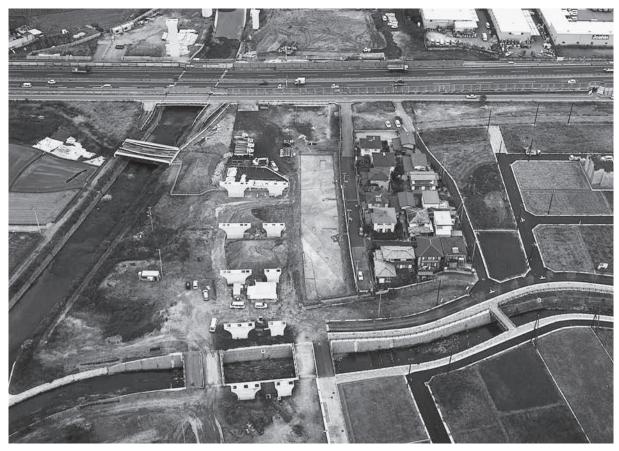
57区 南東から



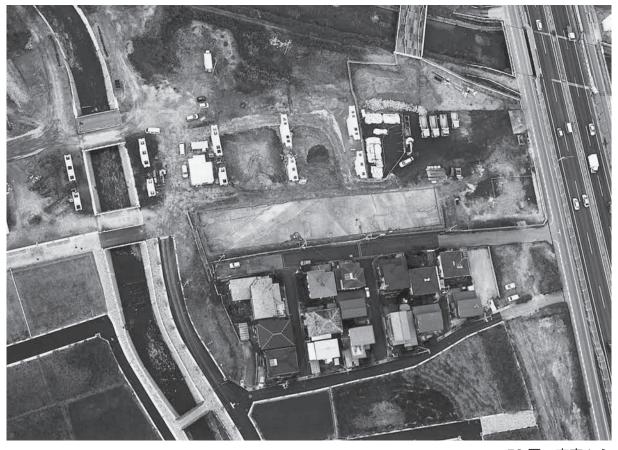
58区 南西から



58区 北西から



59区 南西から



59区 南東から



57 区全景 西から



57 区全景 北東から



57区 SR01 全景 南から

57区 SR01 セクション 南東から



58区 SH02 北東から



58 区 SH02 土器出土状況 1



58区 SH02 土器出土状況2



58区 SH02 土器出土状況3



58 区 SH02 土器出土状況 4



58区 SH02 土器出土状況5



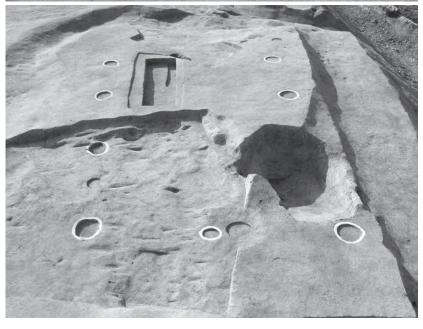
58区 SH02 土器出土状況6



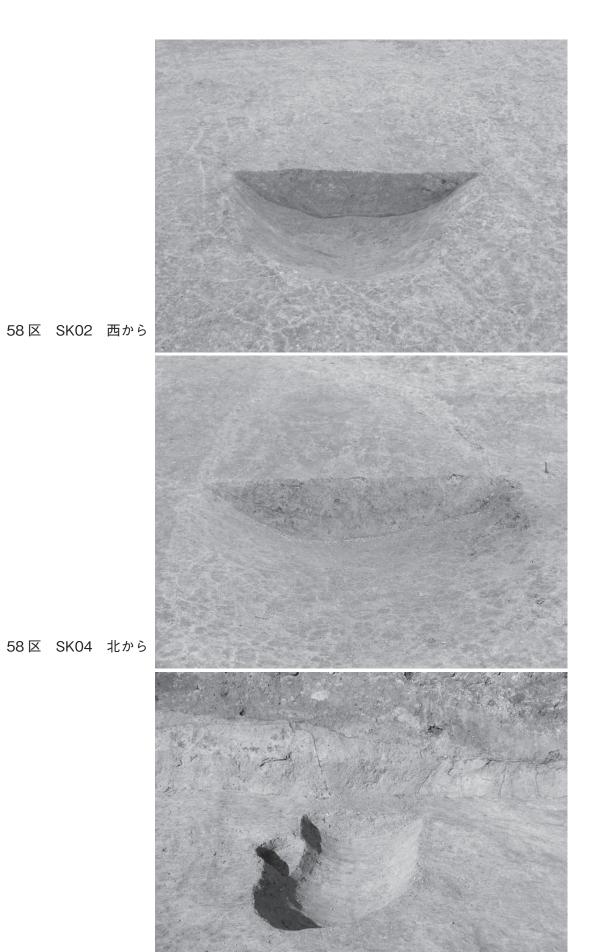
58区 SB01、02 北東から



58·59区 SB03 西から



58区 SB04 北東から



58区 SK05 北西から



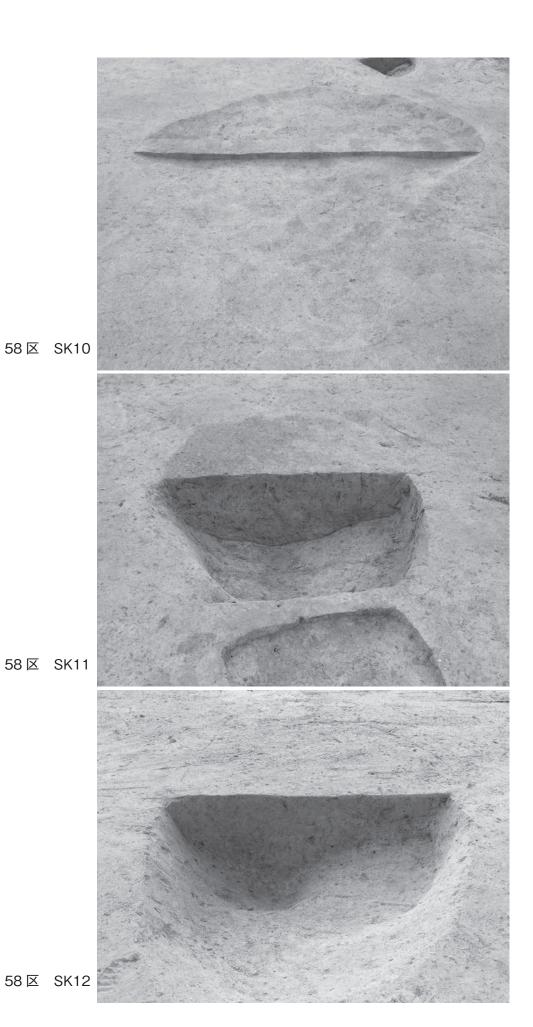
58 区 SK06



58 ⊠ SK08

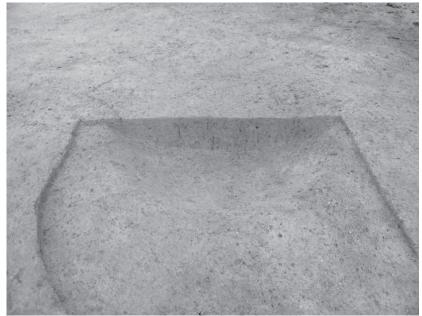


58 区 SK09





58 ⊠ SK14



58区 SK15



58 区 SK18



58区 SK20



58 区 SK20 土器出土状況



58 ⊠ SK21



58区 SD02 北から



58区 SD02 南から



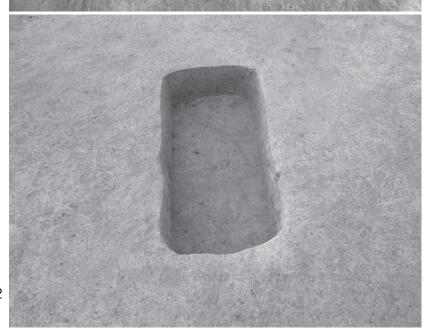
58区 SD02 北から



58 区 SD02 瓦出土状況 北から



58区 SX01 東から



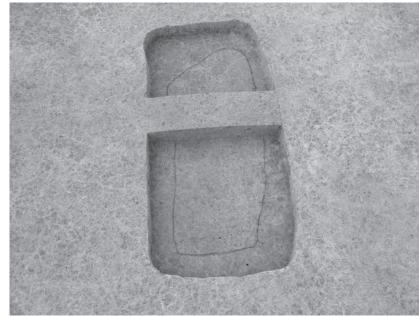
58区 SX02 完掘状況 東から



58 区 SX03、04 完掘状況 北から



58 区 SX05 完掘状況 北から



58 区 SX06 主体部床面検出状況 北から



58区 SX07 北から



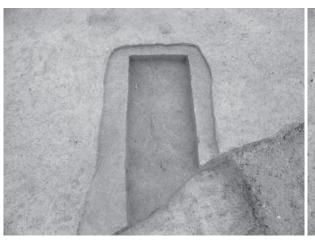
58区 SX08、09、10 東から



58区 SX08 木棺検出状況 東から



58区 SX08 北から



58区 SX08 床面検出状況



58区 SX08 管玉出土 南から



58区 SX09 全景 東から



58 区 SX09 木棺検出状況 北東から



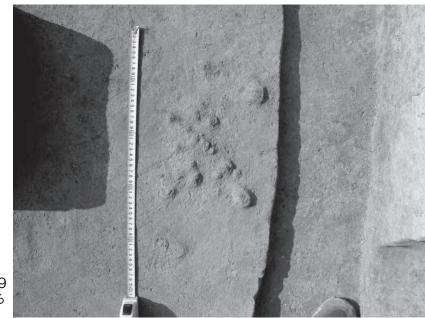
58区 SX09 主体部セクション 南から



58区 SX09 主体部



58区 SX09 主体部完掘状況 北から



58 区 SX09 ガラス小玉検出状況 北から



58区 SX09 南から



58 区 SX09 周溝東側土器出土状況



58区 SX10 北から



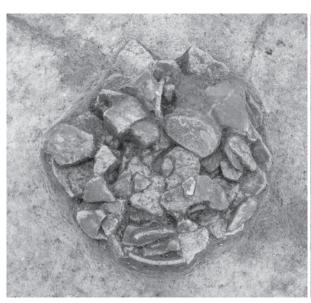
58 区 SX10 周溝検出状況 西から 58 区 SX10 周溝内土器出土状況 南から



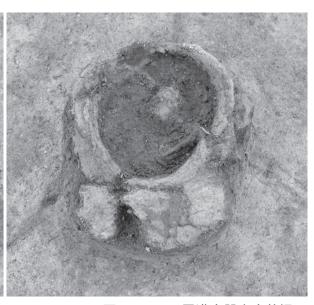
58区 SX10 周溝土器出土状況1



58区 SX10 周溝土器出土状況2



58 区 SX10 周溝土器出土状況3



58区 SX10 周溝土器出土状況 4



58区 SX10 周溝土器出土状況5



58区 SX10 周溝鉄器出土状況1



58区 SX10 周溝鉄器出土状況2



58区 SX10 周溝 南から



59 区全景 北東から



59 区全景 南西から



59 区 SB03



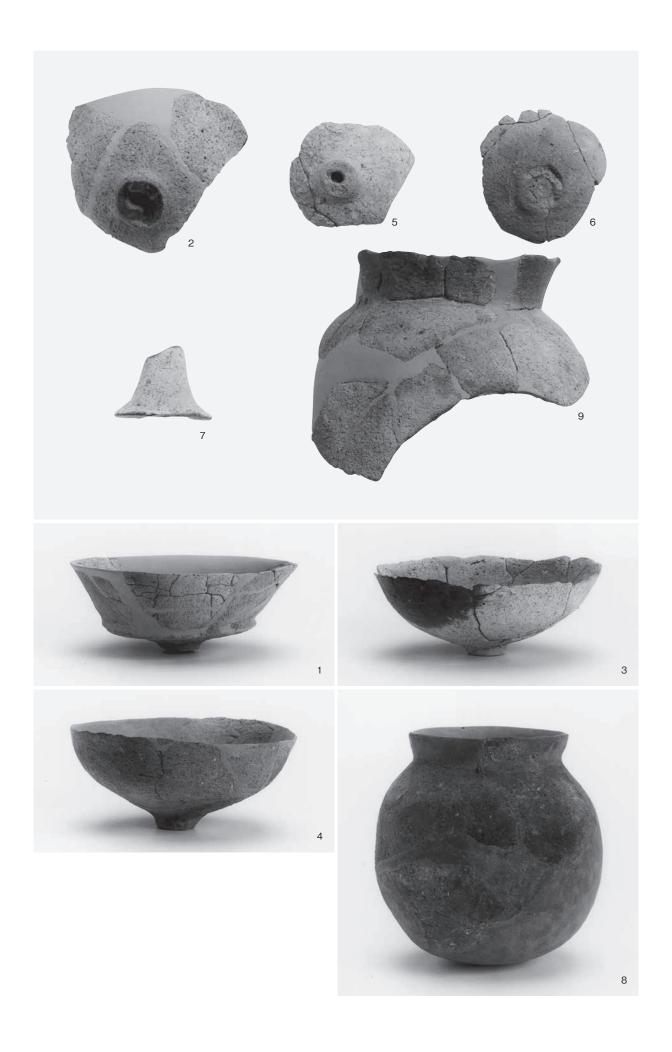
59区 SD02 北東から

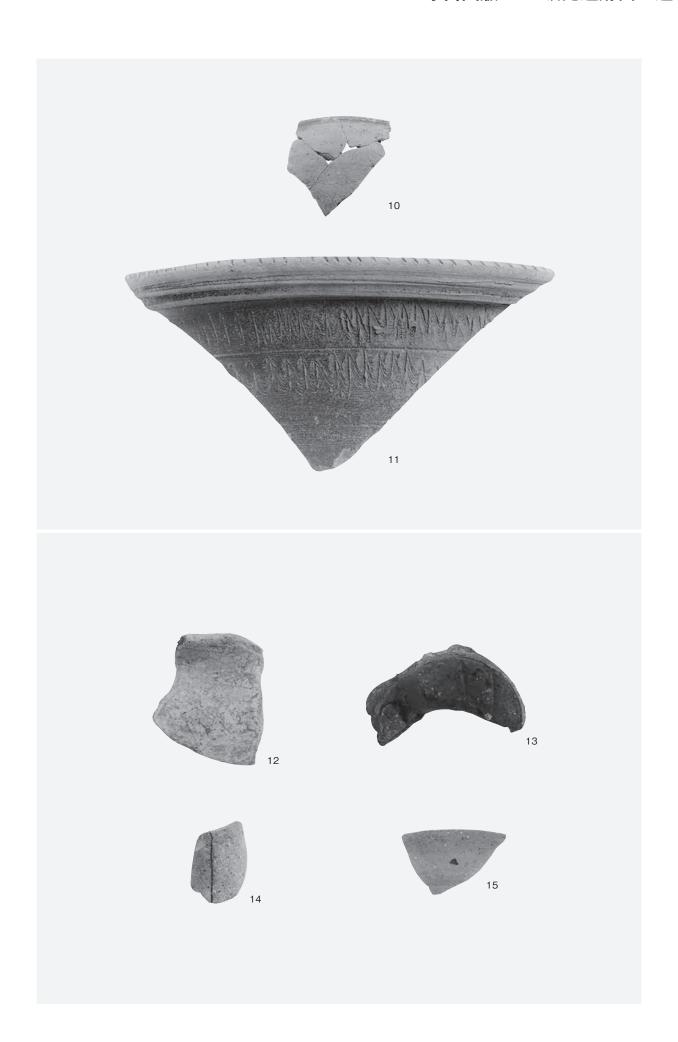


59 区 SD02 土器出土状況

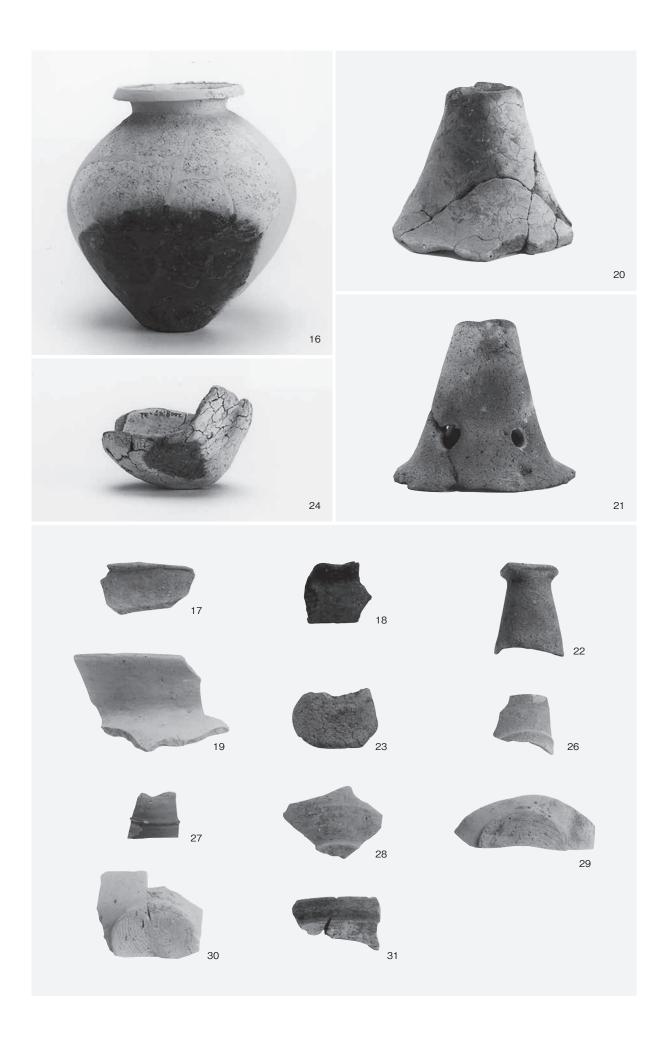


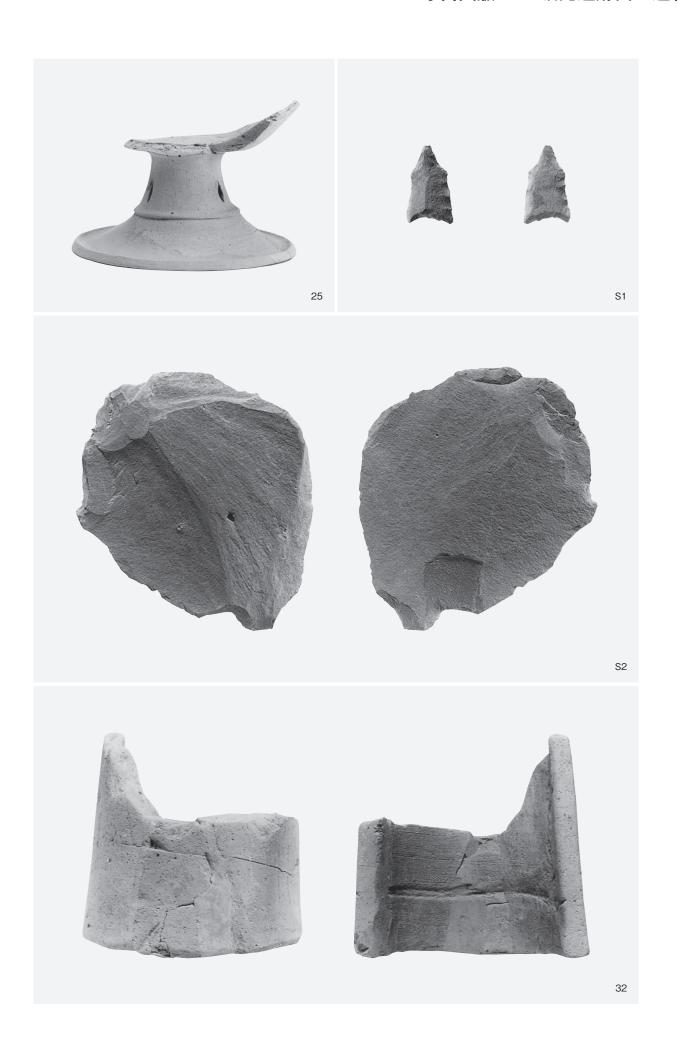
59区 噴砂状況 南から





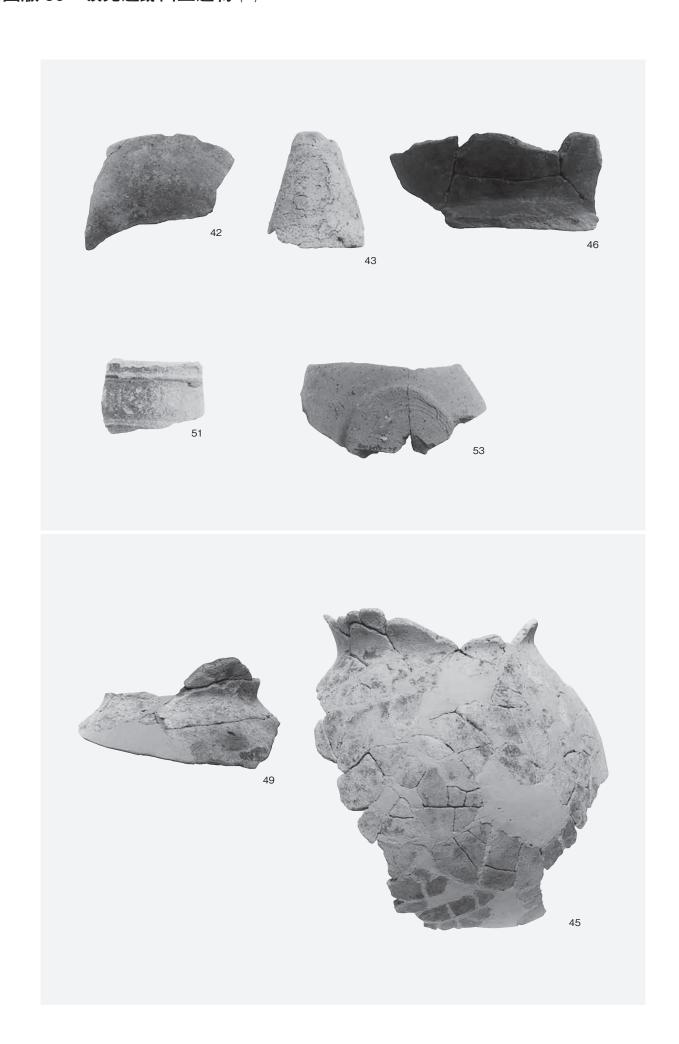
## 写真図版 26 坂元遺跡出土遺物 (3)

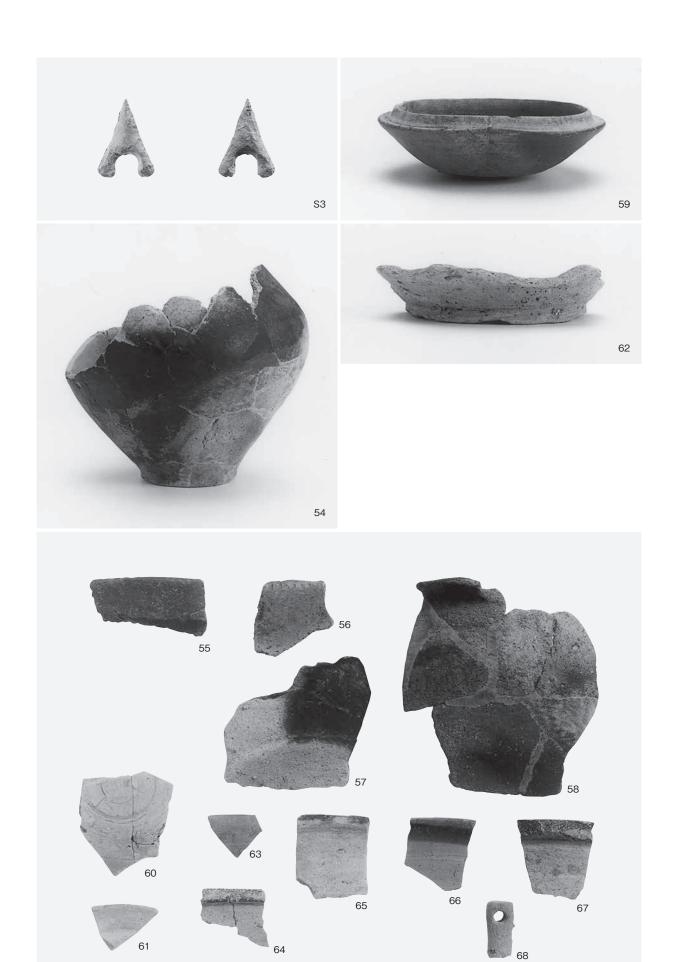


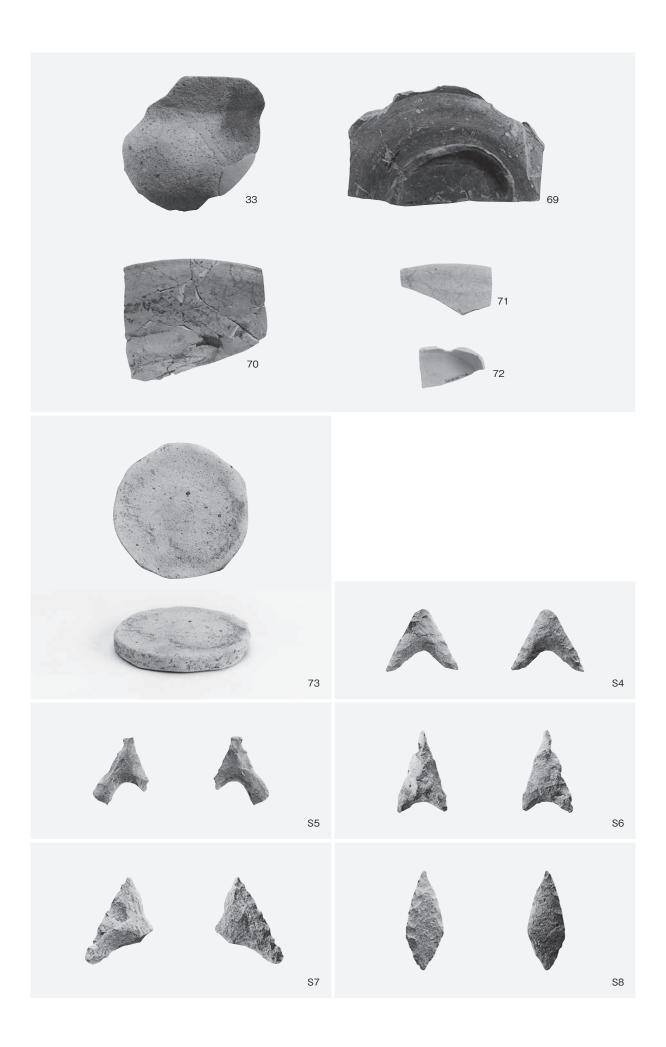














西区 南西から



東区 南西から



東区全景 東から



西区全景 東から



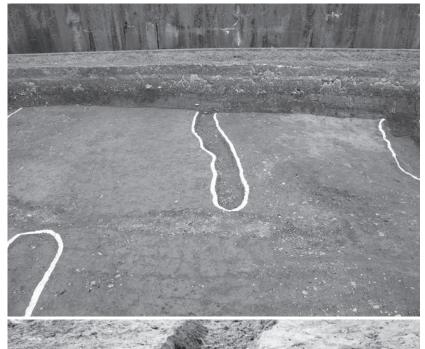
西区 SD01、02 北から



西区 SD01 北から



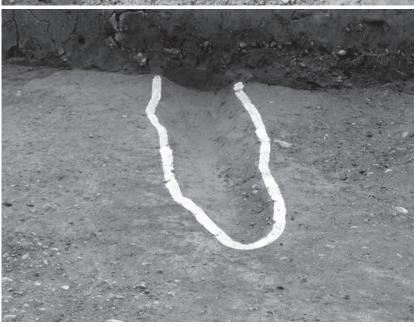
西区 SD02 北から



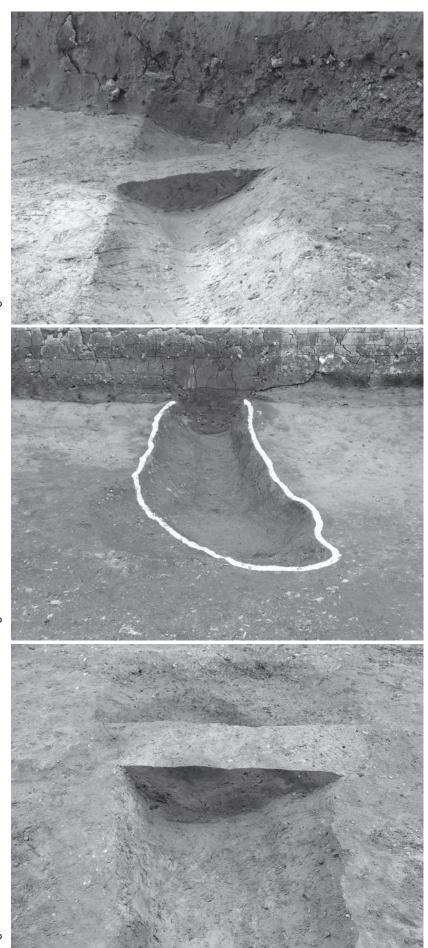
西区 SD03 南から



西区 SD03 北から



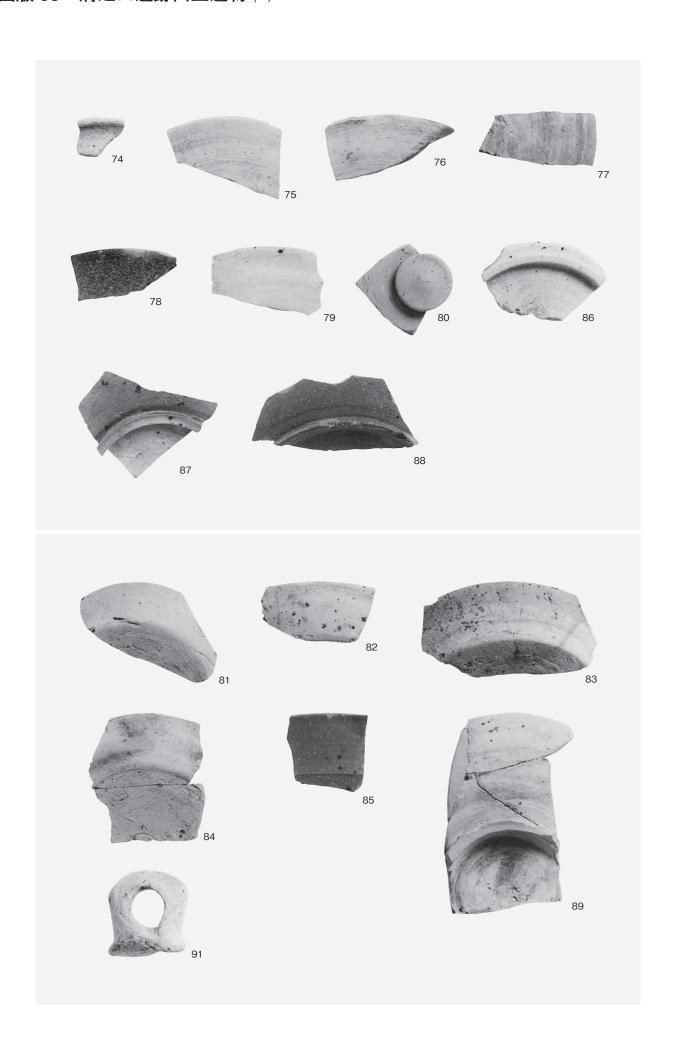
西区 SD04 北から

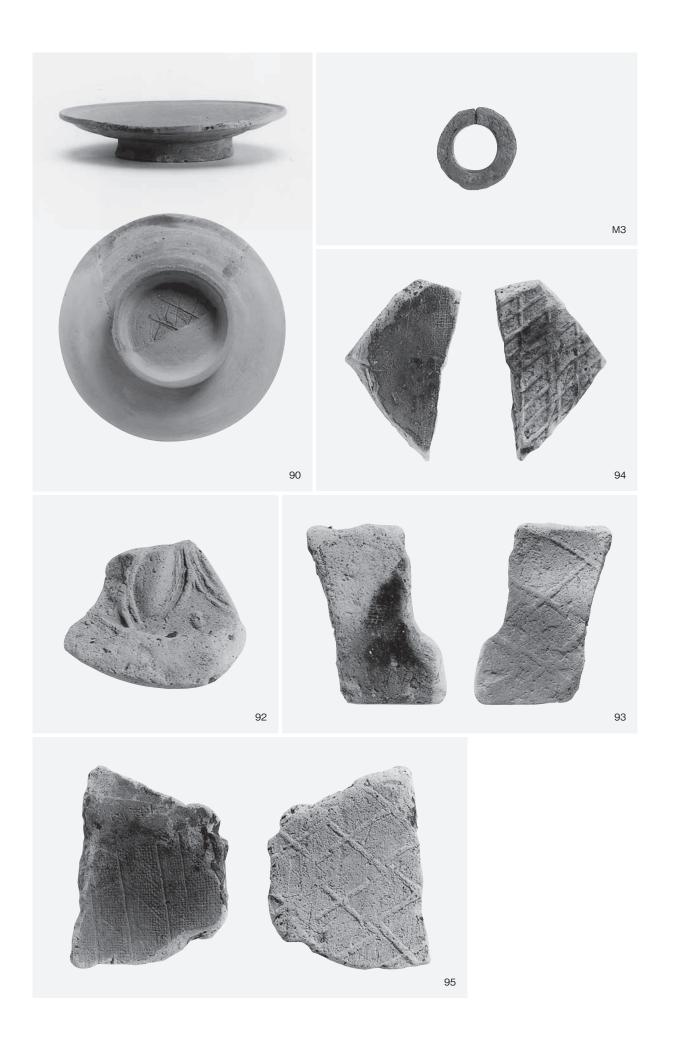


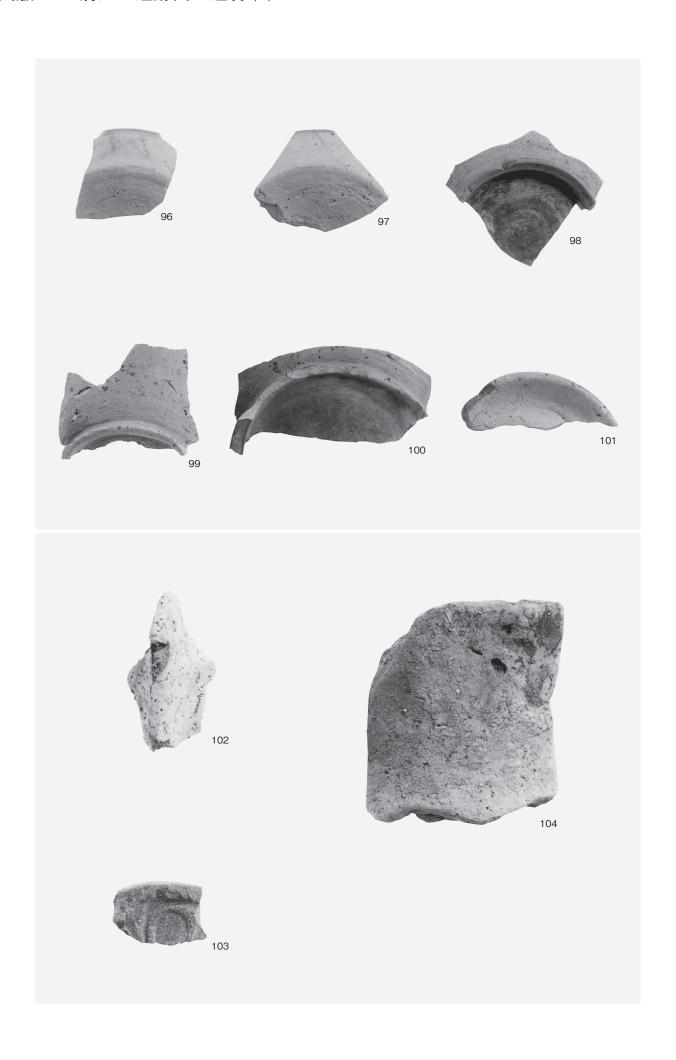
西区 SD04 北から

西区 SD05 南から

西区 SD05 北から







## 報告書抄録

			FIX	<b>=</b> 1	ツ 			
ふりがな	さかもといせき4・みぞのくちいせき2							
書 名	坂元遺跡Ⅳ·溝之口遺跡Ⅱ							
副書名	(主) 加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第 427 冊							
編著者名	小川弦太・深江英憲・岡本一秀・山本 誠							
編集機関	兵庫県立考古博物館							
所 在 地	〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 Tel 079-437-5589							
発行年月日	西暦 2012 年(平成 24 年) 3 月 29 日							
所収遺跡名	所在地	コード		사상	中勿	<b>細木</b> 棚 明	田木石柱	調本店田
		市町村	調査番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
*************************************	Def C the n C c fee fee fee fee fee fee fee fee fee f	28210	2006090	34 度 45 分 42 秒	134 度 51 分 12 秒	本発掘調査 20060925 ~	4,878m²	(主) 加古川 小野線(東 - 播磨南北道
						20070205		
			2008145			本発掘調査 20080916 ~	1,130m²	
						20081121		
<sup>みぞのくちいせき</sup> 溝之口遺跡	京 東 東 東 東 東 カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ	28210	2006091	34 度 45 分 51 秒	134 度 51 分 06 秒	本発掘調査 20060925 ~ 20070205	289 m²	路) 道路改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
<sup>変かもと い せき</sup> 坂元遺跡	集落跡	弥生 古墳 中世	竪穴住居 掘立柱建物 古墳・土坑墓 溝・土坑		弥生土器・土師器・ 須恵器・瓦・鉄斧・ 鉄鏃・石鏃・ ガラス小玉・管玉		SX09 の主体部床面から 水銀朱を検出した。	
みぞのくちぃせき 溝之口遺跡	集落跡	古代	水田溝		土師器・須恵器・ 瓦		瓦は播磨国分寺系	
要約	坂元遺跡では、竪穴住居 2 棟、掘立柱建物 4 棟、古墳 4 基、木棺墓 2 基、土坑墓 4 基、旧流路、溝、土坑等を検出した。57 区は、弥生時代前期の旧流路を検出し、律令期頃まで氾濫源や後背湿地等の低湿地であったと考えられる。58・59 区は河岸段丘上の安定した立地条件の場所である。古墳時代は主に墓域として利用され、中世段階で大溝の掘削を伴う土地開発が行われている。 溝之口遺跡では、8世紀代の水田畦畔および溝を検出した。今回の調査地は、集落中心部が立地する微高地から外れた低湿地および氾濫源である。							

兵庫県文化財調査報告 第 427 冊

加古川市

## 坂 元 遺 跡 Ⅳ 溝 之口遺跡 Ⅱ

(主) 加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 24 (2012) 年 3 月 29 日発行

編 集 兵庫県立考古博物館 〒 675-0142 加古郡播磨町大中1丁目1番1号 TEL 079-437-5589

発 行 兵 庫 県 教 育 委 員 会 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 交 友 印 刷 株 式 会 社 〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目4番5号